

第64回 日本児童青年 精神医学会総会



子どものこころの発達と
未来への展望

The 64th Annual Meeting of The Japanese Society for Child and Adolescent Psychiatry

会期 2023年11月14日(火)~16日(木)

会場 弘前市民文化交流館、アートホテル弘前シティ

大会長 中村 和彦 (弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座 教授)

顧問 田崎博一 (一般社団法人青森県精神科病院・診療所協会 会長)

事務局長 富田 哲 (弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座 准教授)

オンデマンド配信期間 2023年12月1日(金)~2024年1月10日(水)

<https://child-adolesc.jp/meeting/64/>

第64回日本児童青年精神医学会総会

—子どものこころの発達と未来への展望—

会長：中村和彦（弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座 教授）

-
- 会 期 2023年11月14日（火）～16日（木）
オンデマンド配信期間：2023年12月1日（金）～2024年1月10日（水）
- 会 場 弘前市民文化交流館・アートホテル弘前シティ
A会場 弘前市民文化交流館（弘前市駅前町9-20 ヒロ口4F）
B～E会場 アートホテル弘前シティ（弘前市大町1丁目1-2）
ポスター会場 アートホテル弘前シティ
- 代議員会 2023年11月14日（火）B会場
会員集会 2023年11月14日（火）A会場
-

後援：青森県・弘前市

第64回総会に関するお問い合わせ

第64回日本児童青年精神医学会総会 運営事務局
〒108-6028 東京都港区港南品川インターシティA棟28階
株式会社メッド内
TEL：03-6717-2790 FAX：03-6717-2791
Email：jscap64@med-gakkai.org

総会HP：<http://child-adolesc.jp/meeting/64/>

学会HP：<http://child-adolesc.jp/>

学会事務局 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 （株）土倉事務所内
TEL：075-451-4844 FAX：075-441-0436
E-mail: jde07707@nifty.com

第64回日本児童青年精神医学会総会

— 子どものころと発達と未来への展望 —

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座の中村和彦でございます。伝統ある日本児童青年精神医学会の第64回大会を青森県弘前市で開催させていただきます。テーマは「子どものころの発達と未来への展望」です。

昨今、少子化や子どもの貧困など子どもに関する諸問題が連日報道されています。少子化については、令和4年の合計特殊出生率は1.27で人口が減りつづけております。東北大学経済学研究科吉田研究室の子ども人口時計によると、日本の子ども（0-14歳）の数は2966年には1人になってしまうとのことです。非常に衝撃的な数字ですが、弘前市でも実際に子どもの数は年々減っております。貧困問題も深刻で、公的支援は十分とは言い難い状況です。このような社会で私たちは子どもたちのために何ができるでしょうか。学会員の皆様に子どもたちの未来について語りあって頂きたく、このテーマに致しました。

私事ながら、私が初めてこの学会に参加したのは、1991年に若林愼一郎先生（岐阜大学 教授）のもとで開催された第32回岐阜総会で、スローガンは「21世紀の児童青年精神科医療をめざして」でした。当時、私は医師2年目で、香川医科大学神経精神科で働いていました。オーブンの藤岡邦子先生（弘前大学出身）のご指導のもと、学会発表に向けて皆でスライドや原稿を作成しました。私の故郷の岐阜市で、初めて市民会館のような大きな会場で発表しました。当時、学会での議論は今と違って厳しい雰囲気でした。しかし、私たちのような地方の発表に対して、梅ヶ丘病院の中根晃先生方がいつも好意的なコメントを下されました。中根先生のコメントを励みに、ぜひ来年も発表したいと思い、毎年学会に行くのを皆で楽しみにしておりました。その頃の学会は、初日の夕方に症例検討のセッションがいくつか並んでおり、一つ選んで参加しました。症例検討が終わると皆で連れ立って食事に行くなど、本当に楽しかった思い出です。今回の学会は以前のように初日の11月14日に症例検討を5つ並べました。ぜひ参加して頂き活発なご発言をお願い致します。

会員の皆様、各日のセッション終了後は若手の方々をお誘いのうえ街に繰り出して下さい。ちょうど紅葉シーズンで、観光スポットとしては、弘前城、津軽藩ねぶた村、最勝院五重塔、禅林街、リング公園、岩木山、モダンな洋館が点在しています。青森の日本酒にも味わいがあります。少し足を延ばせば温泉や観光地がたくさんあります。藤岡先生がご存命であれば弘前学会にお越し頂き喜んで頂けたらと残念ですが、若い会員に糸をつなぐ学会にしたいと思っております。

（第64回日本児童青年精神医学会総会会長 中村和彦）

参加者へのご案内

1. 参加受付

本会へご参加いただくにあたり、事前登録または当日・オンデマンド配信登録のいずれかをお済ませください。なお当日、現地での参加登録受付はクレジット決済のみ対応いたしますのでご了承ください。

参加を希望される方は、必ずシステムにて参加登録をお願いいたします。

受付期間

●事前登録：2023年8月1日（火）～10月31日（火）

【銀行振込：10月17日（火）まで】

●当日・オンデマンド配信登録：2023年11月6日（月）～2024年1月10日（水）

※当日・オンデマンド配信登録でのお申込みは、クレジット決済のみ対応いたします。

銀行振込をご希望の方は、10月17日（火）までにご登録ください。

オンデマンド配信は12月1日（金）から2024年1月10日（水）で共催セミナーと症例検討を除くセッションを予定しております。

参加費など

参加者区分	事前登録 (10月31日迄)	当日・オンデマンド配信登録 (1月10日迄)
学会員	10,000円	12,000円
非会員（一般）	12,000円	14,000円
非会員（学生・院生） ※学生証を呈示してください	6,000円	7,000円
懇親会費	5,000円	
昼食費	1,080円 / 個	-

- ・現地参加の方におかれましては、MyPageにログインいただき、MyPageへ表示されるQRコードを総合受付にてご提示ください。QRコードを読み取り、現地参加用のネームカードをお渡しいたします。
- ・参加証および領収書はMyPageにログインいただき、ご自身でダウンロード・出力してください。
- ・例年同様、抄録集の印刷・発行はございません。抄録本文は第64回総会ホームページからご覧いただけます。
- ・抄録閲覧用ID：aomori2023 パスワード：jscap64（2024年1月10日まで）
- ・会員の方は、期限なく当学会ホームページの会員サイトより閲覧することができます。

2. 症例検討への参加方法

学会員のみとさせていただきます。非会員の方の参加はできません。

巻頭の参加に関するご案内をお読みください。

3. 年会費・新入会受付

総会会期中は総合受付（アートホテル弘前シティ 3F ロビー）に「学会事務局受付」を設置いたします。

入退会・年会費・住所変更に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

<日本児童青年精神医学会事務局>

〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8 (株)土倉事務所内

TEL：075-451-4844 FAX：075-441-0436 E-mail:JDE07707@nifty.com

4. 会員集会

会員の皆様に、学会活動につき報告いたしますので、万障繰り合わせのうえご参加賜りますようお願い申し上げます。

日 時：11月14日（火）12：50～13：50

会 場：A会場 弘前市民文化交流館（4F 弘前市民文化交流館ホール）

5. 懇親会

日 時：11月15日（水）19：00～21：00

会 場：ポスター会場 アートホテル弘前シティ 12F スカイバンケット

参加費：5,000円

※参加される方は、参加登録と一緒にお申し込みください

定 員：90名

※定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

お早めの受付をお願いいたします。

6. 単位取得

1) 本会では以下のセッションを「日本精神神経学会精神科専門医」「子どものこころ専門医」の対象セッションとして申請しております。詳しくは各学会・団体へお問い合わせください。

オンデマンド配信でも単位申請は可能です。MyPageの単位申請フォームから申請いただきますようお願いいたします。オンデマンド配信期間終了後に視聴記録を申請先事務局へ提出いたします。単位取得を希望される方は必ず申請してください。各単位による申請方法の詳細は下記をご覧ください。

※事務局で視聴記録管理をさせていただいております。

○日本精神神経学会精神科専門医（B群）

・本学会では3単位取得可能です。

・現地参加の方におかれましては、参加受付の際に芳名用紙をお渡しいたしますので、会期中に総合受付へご提出ください。

・オンデマンド配信で参加の方におかれましては、MyPageの単位申請フォームより、「日本精神神経学会精神科専門医（B群）」の項目に必須情報を記載し、申請してください。

○子どものこころ専門医

2023年度よりQRコードを用いた受講単位登録が始まりました。講習受講時にはQRコードを読み込むことができるインターネット接続可能な機器（スマートフォン・タブレット等）と専門医・専攻医専用サイトのID・パスワードをご用意ください。

- ・1つの受講につき1単位が取得可能です。
- ・現地参加の方におかれましては、講演終了後に、講演会場の出口にQRコードを掲示いたしますので、QRコードを読み込んでいただきご自身で申請して下さい。
- ・オンデマンド配信で参加の方におかれましては、MyPageのオンデマンド配信視聴ページより、ご視聴いただき、スライドに表示されたQRコードを読み込んでいただき、ご自身で申請して下さい。

【単位対象セッション※1】

セッション名	日本精神神経学会専門医	子どものこころ専門医
教育講演	○	○
シンポジウム	○	○
委員会セミナー	×	○
症例検討※2	×	○

※1 10月11日現在、単位申請中につき、確定後に本会ホームページに詳細を掲載いたします。

詳しくは各学会・団体へお問い合わせください。

※2 症例検討については、オンデマンド配信をしないため現地参加のみ。

- 2) 一般社団法人日本児童青年精神医学会「日本児童青年精神医学会認定」の資格取得後の研修として、本会は承認されています。学会参加証（写し可）をご提出ください。

<付与ポイント>

- ・学会への出席 3点
- ・演題発表筆頭者 3点
- ・演題発表連盟者 2点

- 3) 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会

「臨床心理士」有資格者の資格取得後の教育・研修にかかる研修機会として、本会は承認されております。研修証明書として学会参加証をご提出ください。

<付与ポイント>

- ・講師参加：4ポイント、発表者：4ポイント、学会参加：2ポイント

7. お弁当（15日・16日 昼食）

本総会の共催セミナーでは、お弁当の無料配布はありません。

事前登録時にお申込みいただいた方は指定日時に昼食券と引換えに、お弁当をお受け取りください。当日の販売はありません。

<お弁当引換日時>

日 時：11月15日（水）12：00～13：00

11月16日（木）12：10～13：10

場 所：アートホテル弘前シティ 3Fロビー 総合受付

8. クローク

貴重品や傘のお預かりはできません。また、お預かりは当日限りとし、翌日までのお預かりはいたしかねますので、以下の開設時間内に必ずお引き取りください。

場 所	受付日時
アートホテル弘前シティ 3F ロビー	11月14日（火）12：00～19：40
	11月15日（水）08：00～18：50
	11月16日（木）08：00～15：50

※代議員会（14日）および懇親会（15日）にご出席される方は、会場内にお荷物をお持ち込みください。

9. 無料公開プログラム（事前申込不要）

受講対象者：児童青年精神医学に関心を持つ医療、心理、教育、行政等の関係者、医療、教育、心理関係の学生

参加受付：会場前で参加受付を行います。ご芳名いただいた方に参加証をお渡しいたします。会場内では必ず参加証を身につけていただきますようお願いいたします。無料公開プログラム以外の聴講ならびに会場内への立ち入りはご遠慮ください。

○教育に関する委員会セミナー

日時：11月16日（木）09：00～11：00

○福祉に関する委員会セミナー

日時：11月16日（木）11：05～13：05

※講演会場（A会場：弘前市民文化交流館（4F 弘前市民文化交流館ホール））へのご入場は、会場内の準備が整い次第、ご案内させていただきます。

10. 託児室

会期中は託児室を設置いたします（完全予約制）。詳細は第64回総会ホームページをご覧ください。

11. PC発表データの受付

発表者の方は、セッション開始の30分前までに必ずご自身が発表データの受付・確認を行ってください。

発表をご自身のPCで行う場合でも、PCデータ受付に指定時間までにお越し頂き、データ受付を行ってください。発表の15分前までに会場左前方の次演者席付近へご着席ください。

場 所	受付日時
弘前市民文化交流館	11月14日（火）12：00～16：50
弘前市民文化交流館ホール入口（A会場）	11月15日（水）08：00～17：00
アートホテル弘前シティ 3F ロビー（B～E会場）	11月16日（木）08：00～13：50

12. 会期中の問い合わせ先

アートホテル弘前シティ 3Fロビー総合受付

13. その他

- 1) 会場内では、携帯電話をマナーモードに設定してください。
- 2) 会場内は全館禁煙です。
- 3) 会長の許可のない掲示・展示・印刷物の配布・録音・写真撮影・ビデオ撮影は固くお断りいたします。

司会・発表者へのご案内

1. 進行情報

セッション	発表	質疑
一般演題（口演・ポスター）	10分	5分

※上記以外のセッションについては発表時間、質疑時間、総合討論の有無について、別途担当者よりお知らせします。

- ・発表終了1分前に黄色ランプ、終了・超過時には赤色ランプを点灯してお知らせします。円滑な進行のため、時間厳守をお願いします。
- ・演台上には、モニター、キーボード、マウスを用意いたします。演台上がると最初のスライドが表示されますので、その後の操作は各自でおこなってください。

2. 司会の皆さまへ

I. 口演セッション

司会受付はございません。座長は担当セッションの15分前までに、講演会場の右手前方にある「次司会席」へご着席ください。セッション開始時に自身のCOI状態をお話し下さい。

II. ポスターセッション

担当セッション開始予定時刻の15分前までに、ポスター会場前の「司会受付」にお立ち寄りいただき、司会用リボンと指示棒をお受取りください。アナウンスはいたしませんので、担当セッションのパネルの前で待機していただき、所定の時刻より開始してください。セッション開始時に自身のCOI状態をお話し下さい。セッション終了後、指示棒は「司会受付」にご返却ください。

3. 発表者の皆さまへ

I. 利益相反の開示

- 1) 会員・非会員の別を問わず学会発表者（筆頭発表者）は自身のCOI状態を発表スライドの最初（または演題・発表者を紹介するスライドの次）またはポスターの最後に開示してください。
- 2) 学会発表者（筆頭発表者）は利益相反申告書を学会事務局に郵送してください。

II. 口演セッション 試写・発表方法

- 1) 口演発表はすべてPC発表は（PowerPoint）のみといたします。発表データはMicrosoft PowerPointで作成してください。
- 2) PowerPointの「発表者ツール」は使用できません。発表用原稿が必要な方は各自ご準備ください。

【データ持込みによる発表の場合】

- ・フォントは下記に示すOS標準フォントをご使用ください。特殊フォントは文字化けの可能

性がありますのでご注意ください。

【日本語】MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝

【英語】Airai、Century、Century Gothic、Times、Times New Roman

- ・データは USB でお持ち込みください。USB に保存したデータが、他の PC でも読み込めることを事前にご確認ください。また、発表データのファイル名は〈演題番号（半角英数字）＋発表者氏名〉としてください。

（例）O1-1 弘前 太郎

- ・動画があるデータを持参する場合は、動画などの参照ファイルも含め全てのデータを同じフォルダに保存してください。また、バックアップとして PC 本体をお持ちくださいますようお願いいたします。なお、取り込んだ発表データは、学会終了後に事務局で責任をもって破棄させていただきます。
- ・一般演題で発表される方については「発表者ツール」の使用はできません。発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。

【PC 本体持込みによる発表の場合】

- ・会場で用意する PC ケーブルコネクタの形状は「HDMI 端子（図参照）」です。この端子を持つ PC をご用意ください。または、この形状に変換するコネクタを必要とする場合は必ずご持参ください

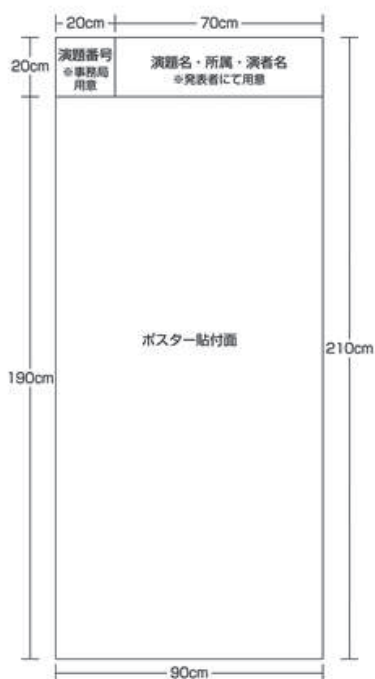


- ・スクリーンセーバー、省電力設定は予め解除しておいてください。
- ・バッテリー切れを防ぐために AC 電源アダプターをご用意ください。
- ・万が一パソコンが不調な場合に備えてデータのバックアップを USB メモリでご用意ください。
- ・スムーズな進行を行うために一般演題でのご発表者の「発表者ツール」の使用はお控えください。発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。

【ポスターセッション】

- 1) ポスターの貼付スペースは、横90cm×縦190cmの範囲内とします。タイトル・氏名・所属は、パネル上方の演題番号の横に横70cm×縦20cmでおさまるようにご自身でご準備ください。演題番号と画鋏は、事務局で準備いたします。

〈ポスター作成図〉



2) ポスター貼付・撤去スケジュール

発表日 貼付 撤去

発表日	貼付	撤去
11月14日（火）	13：00～16：10	17：10～18：10
11月15日（水）	08：30～10：30	16：10～17：00
11月16日（木）	08：30～09：40	15：00～15：20

※ポスターは貼り替えとなります。

※ポスター撤去時間は厳守してください。時間になり次第、処分いたします。

- 3) 演者受付は不要です。セッション開始15分前までにご自身のパネルの前で待機してください。

【E ポスターセッション】

学会会期中～オンデマンド配信期間中（2023年11月14日（火）～2024年1月10日（水））閲覧可能です。

My Page のポスターページから閲覧ください。

前文

日本児童青年精神医学会は、1996年8月の世界精神医学会総会において採択された「マドリード宣言」と1999年8月の同総会で承認された倫理ガイドライン特別項目を基本にして、ここに会員の遵守すべき倫理綱領を制定する。

今日、国内外において子ども（児童及び青年）の精神保健をめぐる深刻な問題が多様に出現しており、その背景には家族・学校・地域社会における人間関係や慣習、生活環境、文化の変貌等がある。そのため、児童青年精神科医をはじめとして臨床と実践の仕事に携わる専門家への期待が世界的に高まっている。

さらに、精神科医療、保健、福祉、教育、司法等対人援助分野の専門性に対する社会の意識も大きく変化し、各分野の専門家と子どもとの関係のあり方、治療・援助方法などに変更を求め、研究上また临床上において新たな倫理的基準を求めようになってきた。

医療は、癒しのサイエンスであり、かつアートである。この組み合わせのダイナミクスは、精神的に病み、また障害をもつものを保護し、ケアし、治療することを専門とする精神科医療、とりわけ児童青年期精神科医療において顕著に現れている。ここでは、治療的介入や研究活動が子どもの心身の機能および人権に対して侵襲的なものにならないよう十分な配慮が必要である。

1（基本原則）

児童青年期精神科医療は、子どもの精神障害などに対して、最良の治療を提供し、かつ精神的に悩む人達のハビリテーション、精神保健を含めた予防医学的活動の推進、心身の発達支援を目指す児童青年精神医学を中心とした学際的領域である。

会員は、子どもに対して習得した科学的知識と臨床経験並びに倫理的原則に調和した最高の治療・援助を提供するよう努める。

会員は、契約関係にある子どもへの制限が最小限になるような治療的介入を工夫し、必要があれば他分野との連携を積極的に図る。また、会員は保健資源の公正な配置に注目し必要があればその改善のために努力する。

2（会員の義務）

会員は、この分野の科学的知識・技術の習得の義務とともに最新の知識を他に伝達する義務をもつ。また、研究に従事する会員には、科学的に未開拓な領域の発見と検証に努力する義務がある。

3（国際協力）

会員は、国際的視野と見地の下で臨床と研究を進めるとともに、国内外の専門家と協力して世界の子どもの精神保健の維持と改善に努力する。

4（発達する存在への配慮）

会員は、治療や援助の対象としている子どもが急激な発達の変化の途上にあることに十分に留意しなければならない。

子ども期は発達上の個人差が著しく、症状の変化も激しい時期にあるので評価は慎重でなければならないし、薬物の使用などの医療的処置やその他の臨床的対応にも慎重でなければならない。

契約関係にある子どもが年少であったり、障害のために的確な判断ができない場合は、会員は保護者と十分に話し合いを行い、子どもの人間としての尊厳と権利を保護するために法的助言を求める。治療援助を行わなければ、子どもまたは子どもの周囲の人達、あるいは両者の生命と安全を危険に晒すことになるという場合を除いて、会員は子どもまたは保護者、あるいは両者の意思に反した治療はいかなるものも行うべきではない。

5 (インフォームド・コンセント)

会員が一人の人を調査・評価する場合、その目的、その結果の用途、その結果によって起こり得る影響を、調査・評価される当事者および／または保護者に告知・説明し、理解・了承を得る努力をする義務がある。会員が第三者的状况にかかわっているような場合、これは特に重要である。会員は、諸種の事情で契約関係にある子どものインフォームド・コンセントを得られない場合であっても、アセントを得る努力はするべきである。

治療・援助過程において、子どもとその保護者はまさしくパートナーとして認められるべきである。治療・援助者と子どもおよび保護者との関係は、子どもおよび保護者が十分な情報を得た上で自由に自己決定ができるように、相互信頼と尊敬に基づかなければならない。また、会員は、子どもとその保護者が自身の個人的価値と考えに基づいて合理的な決定ができるように、必要な情報を提供していかなければならない。

6 (守秘義務)

治療・援助関係の中で得られた情報は守秘されるべきであり、その子どもの精神保健の改善にのみ用いられるべきで、それ以外に使用してはならない。

会員は個人的理由で、また経済的あるいは学問的な利益のために、契約関係にある子どもに関する情報を本人や家族の了解なしに使用することも禁じられる。

守秘義務の不履行は、秘密を保持することによってその子どもや保護者または第三者が重大な身体的・精神的な危害を被る可能性が高い時にのみ妥当とみなされる。しかし、こうした状況の時も、会員はできるだけ子どもがとるべき行動について、先ず子どもまたはその保護者に助言すべきである。

7 (職責上の人権侵害行為 (パワー・ハラスメント) の禁止)

会員は、いかなる理由があっても職責上、子どもや保護者に対してセクシャル・ハラスメントなどのパワー・ハラスメント行為をしてはならない。また、会員はパワー・ハラスメント行為と誤解されないように自己の行為に対して日常的に配慮する必要がある。

8 (研究上の留意事項)

子どもを対象とする研究を行う場合、会員は研究の計画と実施に関する国内または国際的ルールに従う。ここでいう研究とは臨床研究、疫学研究、社会的研究、生物学的基礎研究などを含む。

子どもは、心身ともに急激な発達の途上にあるため、研究対象とする場合には彼らの精神的・身体的安全性についてはもちろんのこと、その自律性の保護には特別な注意を払う必要がある。

会員が研究を行う場合、原則としてその研究計画書を各施設の倫理委員会に提出し、その審議と承認を得てから行わなければならない。

この倫理綱領の内容が、施設における倫理委員会の規定と矛盾する場合には、より患者の利益を優先した判断を下すべきである。

施設内に倫理委員会が設置されていない場合においても、何らかの形で倫理的検討を行う必要があり、その経緯を記録に残す必要がある。

付記

- 1 この学会基本理念と倫理綱領は、国内外における研究と臨床の進展、ならびに関連する領域の規範の変化に応じて、再検討される。
- 2 臨床研究上遵守すべき規範については、日本精神神経学会が承認(1997年5月30日)した「臨床研究における倫理綱領」を当面準用する。
- 3 一般社団法人への変更に伴って平成25年9月8日に改正。

交通案内



2021年4月1日時点で作成したものです

交通



飛行機をご利用の場合

青森空港から【国内線】で羽田・伊丹・札幌・名古屋・神戸より就航
青森空港から【路線バス】で約60分



電車をご利用の場合

新青森駅まで【新幹線】で東京駅から約3時間
弘前駅まで【JR奥羽本線】で新青森駅から約35分



自動車をご利用の場合

【盛岡方面】大鰐・弘前I.C.より車で約15分
国道7号線を青森方面へ→途中県道109号線に入り、弘前駅へ。
【青森方面】黒石I.C.より車で約24分
国道102号線を弘前方面へ直進。



ホテル周辺駐車場

ホテル駐車場および周辺の駐車場情報 Google My Map▶

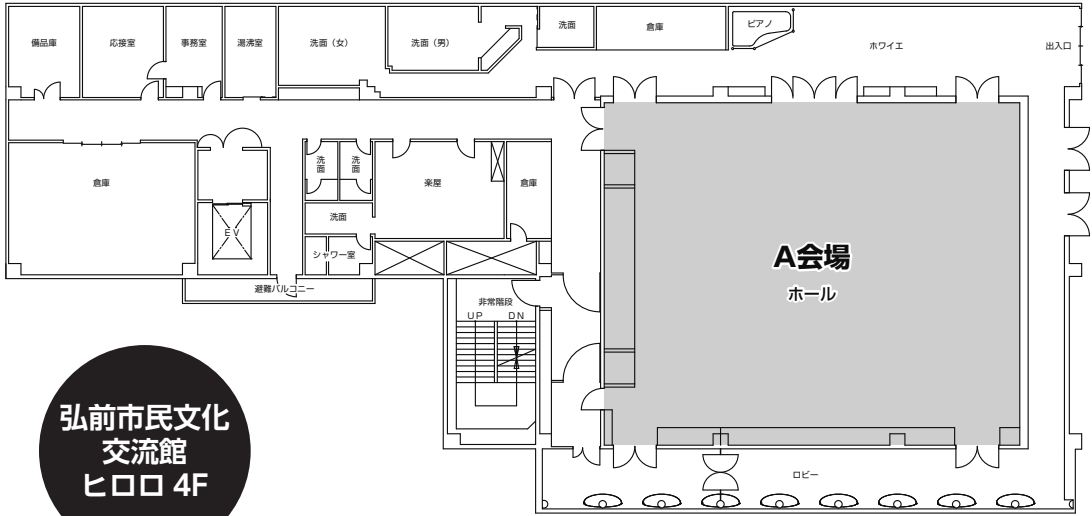


徒歩の場合

弘前駅よりホテルまで徒歩1分

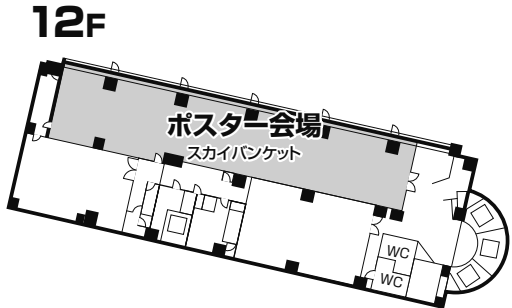
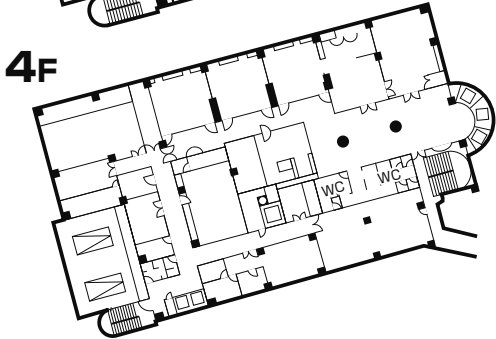
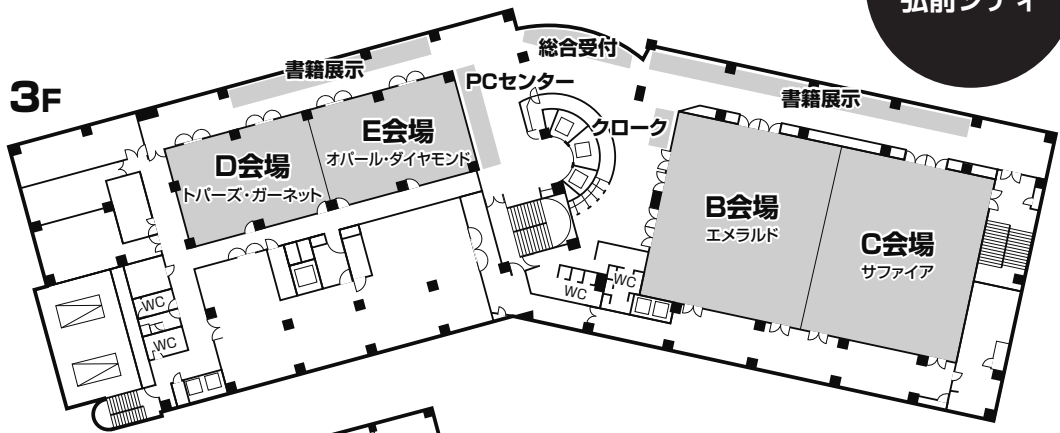


会場案内



弘前市民文化
交流館
ヒロコ 4F

アートホテル
弘前シティ



■11月14日(火) 第64回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
	4F	3F	3F	3F
	弘前市民文化交流館 弘前市民文化交流館ホール	アートホテル弘前シティ エメラルド	アートホテル弘前シティ サファイア	アートホテル弘前シティ トパーズ・ガーネット
8:00				
8:30				
9:00				
9:30				
10:00				
10:30				
11:00				
11:30				
12:00				
12:30				
13:00				
13:30				
14:00				
14:30				
15:00				
15:30				
16:00				
16:30				
17:00				
17:30				
18:00				
18:30				
19:00				

10:40 ~ 12:40
代議員会

12:50 ~ 13:50
開会式 会員集会

14:00 ~ 14:50
学会賞授賞式・記念講演

15:00 ~ 16:00
特別講演
日本の中世・近世史に影響を
与えた津軽の秘史
— 史実と空想の狭間で —
司会：中村 和彦
演者：大熊 洋揮

16:10 ~ 17:10
会長講演
神経発達症群の生物学的研究
と子どもの疫学研究
司会：岡田 俊
演者：中村 和彦

17:20 ~ 19:20
症例検討1
「怒りに突き動かされ、孤立して
いた男児との入院治療を通じて」
司会：野色 健二
スーパーバイザー：杉山登志郎
演者：箱島 有輝

14:00 ~ 16:00
シンポジウム1
東日本大震災がもたらしたもの
— 我々は何を学び、何を残そうとしたのか —
司会：本多 奈美
八木 淳子
演者：板垣俊太郎
八木 淳子
福地 成
中西 大介

16:10 ~ 17:10
教育講演1
児童福祉と児童精神科臨床
— 児童相談所は多くの可能性を秘
めた主要な児童精神科臨床の場
司会：上野 千穂
演者：本間 博彰

17:20 ~ 19:20
症例検討2
「閉鎖性カタトニアを抱える青年へ
の心理・教育的アプローチの実践」
司会：小野 和哉
スーパーバイザー：市川 宏伸
演者：松本 拓真

14:00 ~ 16:00
シンポジウム2
神経発達症を伴う摂食障害の
支援に向けて
司会：高宮 静男
中里 道子
演者：中土井芳弘
高宮 静男
鈴木 太
公家 里依

16:10 ~ 17:10
教育講演2
発達障害と非行
— 一家裁判官の経験から —
司会：森岡由起子
演者：藤川 洋子

17:20 ~ 19:20
症例検討3
「東邦大学医療センター大森病
院における児童摂食障害症例の
治療について」
司会：三上 克央
スーパーバイザー：松本 英夫
演者：山口 大樹

17:20 ~ 19:20
症例検討4
「幻覚妄想状態で引きこもりの息子
と拡大自殺を企てた母親を医療観
察法制度下の治療を行ったことで息
子が引きこもりから脱却した症例」
司会：辻井 農重
スーパーバイザー：田中 究
演者：辻 里花、吉岡 眞吾

■11月15日(水) 第64回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
	4F	3F	3F	3F
	弘前市民文化交流館 弘前市民文化交流館ホール	アートホテル弘前シティ エメラルド	アートホテル弘前シティ サファイア	アートホテル弘前シティ トパーズ・ガーネット
8:00				
8:30				
9:00	9:00～10:00 教育講演3 脳科学からみる幼少期マルトリートメントの治療介入 司会: 太田 豊作 演者: 山室 和彦	8:30～10:30 シンポジウム3 最新のテクノロジーを用いた発達障害支援の現状と今後の課題 司会: 奥野 正景 熊崎 博一 演者: 吉川雄一郎 寺田 和憲 熊崎 博一 上出 寛子 指定発言: 本多 奈美	8:30～10:30 シンポジウム4 今こそ正しく伝えよう、子どもたちに性のことを～子どもが自分で心と身体を守るようにサポートする～ 司会: 上野 千穂 定本ゆきこ 演者: 上野 千穂 定本ゆきこ 井上 聡子 木村 里美	8:30～10:30 心理職に関する委員会セミナー 自閉スペクトラム症の心理アセスメント 司会: 吉川 徹 福田 理尋 演者: 黒田 美保 岡田 智 桑野 恵介 千田 若菜
9:30				
10:00	10:10～11:10 教育講演4 散し認めあう生へー複雑性PTSD経験の苦しみから自分の生を享受する方向へー 司会: 亀岡 智美 演者: 村瀬嘉代子			
10:30		10:40～12:40 薬事委員会セミナー 改訂された注意欠如・多動症－ADHD－の診断・治療ガイドラインをどのように臨床に活かすか 司会: 根来 秀樹 辻井 農亜 演者: 宇佐美政英 岡崎 康輔 木原 弘晶 堀内 史枝 藤田 純一	10:40～12:40 国際学会連絡・国際交流基金運営委員会セミナー Current Status and Countermeasures for Child Suicide from the perspectives of each country 司会 (Chairperson): Machi Kakimoto (栞元 真知) 演者: Yi-An Hung Woo-Seok Choi Akiko Awa (安渡明子) Takuya Saito (齊藤 尊寿) 総合討論 (Discussion) 司会 (Chairperson): Tomoko Shimanouchi (島内 智子) Closing remark: Yukiko Kano (金生 由紀子)	10:40～12:40 子どもの人権と法に関する委員会 パネルディスカッション 「女子非行の理解と支援」 司会: 中西 大介 今村 明 演者: 定本ゆきこ 安保 千秋 平田 哉
11:00				
11:30	11:20～12:20 教育講演5 青年期の臨床に求められているもの 司会: 野邑 健二 演者: 青木 省三			
12:00				
12:30				
13:00	12:50～13:50 共催セミナー1 神経発達症とトラウマとアタッチメント—子どもを多角的にみたて包括的に支援すること— 司会: 岡田 俊 演者: 八木 淳子 共催: ノーベル賞受賞者 麻生 純子 (ノール・ホルツ)	12:50～13:50 共催セミナー2 注意欠如多動症に対する心理社会的治療および薬物療法 司会: 三上 克央 演者: 小平 雅基 共催: 武田薬品工業株式会社		12:40～13:50 鑑定人リスト登録者交流会
13:30				
14:00	14:00～15:00 特別講演 療育手帳に係る判定基準統一化の検討進捗報告および 実施協力について・これからのこども政策について 司会: 中村 和彦 演者: 中山 美恵・杉本 拓哉	14:00～16:00 生涯教育に関する委員会セミナー 自閉スペクトラム症を学ぶ 司会: 三上 克央 太田 豊作 演者: 尾崎 仁 加藤 秀一 岡崎 康輔 岩佐 光章 指定発言: 小坂 浩隆	14:00～16:00 シンポジウム6 SNSとその周辺 司会: 関 正樹 樋端 佑樹 演者: 吉川 徹 関 正樹 樋端 祐樹 指定発言: 木村 一優	14:00～15:00 一般口演1 PDD1 司会: 松崎 秀夫
14:30				
15:00	15:10～16:10 先達に聞く 最近の病態にみる思春期問題—前々思春期の提唱— 司会: 小野 和哉 演者: 牛島 定信			15:10～16:10 一般口演2 PDD2 司会: 大瀧 和男
15:30				
16:00				
16:30	16:20～17:20 教育講演6 自閉スペクトラム障害の問題提起行動とコミュニケーション支援 司会: 本多 奈美 演者: 門 眞一郎	16:20～18:20 シンポジウム5 神経発達症の人たちの余暇活動支援 司会: 本田 秀夫 関 正樹 演者: 加藤 浩平 藤野 博 日戸 由刈 関根 礼子 関 正樹	16:20～18:20 倫理委員会セミナー 改正精神保健福祉法の倫理的課題 司会: 中西 大介 太田順一郎 演者: 庄 紀子 中西 大介 小平かやの	16:20～17:20 一般口演3 PDD3 司会: 太田 豊作
17:00				
17:30				17:30～18:30 一般口演4 PDD4 司会: 板垣俊太郎
18:00				
18:30				
19:00				
19:30				
20:00				

E 会場	ポスター会場		
3F	12F		
アートホテル弘前シティ オパール・ダイヤモンド	アートホテル弘前シティ スカイバンケット		
8:30～9:30 一般口演5 発達障害 司会：太田 英伸	8:30-10:30 ポスター貼付		
9:40～10:40 一般口演6 ゲーム 司会：鈴木 太	10:30～11:30 ポスター4 PDD1 司会：萩原 拓	10:30～11:30 ポスター7 その他3 司会：大西 雄一	10:30～11:15 ポスター10 発達障害 司会：長倉いのり
10:50～11:50 一般口演7 症例1 司会：鬼頭 有代	11:40～12:40 ポスター5 その他2 司会：田中 容子	11:40～12:40 ポスター8 PDD2 司会：山室 和彦	11:40～12:25 ポスター11 その他4 司会：大賀 肇
12:00～12:45 一般口演8 症例2 司会：金井 講治			
14:00～15:00 一般口演9 リエゾン・治療連携 司会：山田 敦朗			
15:10～16:10 一般口演10 その他 司会：藤川 洋子	15:10～16:10 ポスター6 外来・入院統計 司会：佐藤亜希子	15:10～16:10 ポスター9 学校精神保健1 司会：館農 勝	15:10～16:10 ポスター12 学校精神保健2 司会：藤岡 徹
16:20～18:40 映画 自主上映「プリズン・サークル」 企画：上野 千穂	16:10～17:00 ポスター撤去		
	19:00～21:00 懇親会		

■11月16日(木) 第64回日本児童青年精神医学会総会 日程表

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場		
	4F	3F	3F	3F		
	弘前市民文化交流館 弘前市民文化交流館ホール	アートホテル弘前シティ エメラルド	アートホテル弘前シティ サファイア	アートホテル弘前シティ トパーズ・ガーネット		
8:00						
8:30						
9:00	<p>9:00～11:00 教育に関する委員会セミナー 学校でのメンタルヘルスへの アプローチ ～どう理解し、伝えるか～</p> <p>司会：小野 和哉 足立 匡基 演者：西村 倫子 新川 広樹 横嶋 剛</p>	<p>8:30～10:30 シンポジウム7 日常診療と子どもの トラウマケア</p> <p>司 会：笠原 麻里 亀岡：智美 演 者：村上 伸治 八木 淳子 岩垂 喜貴 杉山登志郎 指定発言：青木 省三</p>	<p>8:30～10:30 ICD-11に関する 委員会セミナー 児童青年期にみられる 精神疾患のICD-11における 診断分類</p> <p>司会：中村 和彦 根来 秀樹 演者：高岡 健 大西 雄一 太田 豊作 吉川 徹</p>	<p>8:30～9:30 一般口演14 乳幼児 司会：内山登紀夫</p>		
9:30						
10:00						
10:30				<p>9:40～10:40 一般口演15 学校保健1 司会：林 みづ穂</p>		
11:00	<p>11:05～13:05 福祉に関する委員会セミナー 障害児福祉： 現在の制度における課題</p> <p>司会：古田 洋子 小林真理子 演者：辻本 哲士 辻井 正次 本田 秀夫 内山登紀夫</p>	<p>10:40～12:40 災害対策委員会セミナー COVID-19禍における子ども の育ち—現場からの声—</p> <p>司会：岩垂 喜貴 中西 大介 演者：樹屋 二郎 柴田真理子 遠藤香菜子 三浦 光子</p>	<p>10:40～12:40 シンポジウム8 器物破損を繰り返す子どもたち —その病棟運営と治療的介入</p> <p>司会：堀川 直希 佐々木宏太 演者：木戸口和樹 清野 聡子 横田 周三 佐久間睦貴</p>	<p>10:50～11:50 一般口演16 外来・入院統計 司会：高岡 健</p>		
11:30						
12:00						
12:30				<p>12:00～13:00 一般口演17 学校保健2 司会：内出 希</p>		
13:00						
13:30	<p>13:10～14:10 共催セミナー3 児童精神科領域における ロボットを用いた支援の可能性</p> <p>司会：菊知 充 演者：熊崎 博 共催：大塚製薬株式会社</p>					
14:00						
14:30	<p>14:20～15:20 一般口演11 入院治療1 司会：清水 日智</p>	<p>14:20～15:20 一般口演12 入院治療2 司会：水本 有紀</p>	<p>14:20～15:20 一般口演13 不登校・ひきこもり 司会：栗林 英彦</p>	<p>14:20～15:20 一般口演18 虐待 司会：早川 洋</p>		
15:00						
15:30	閉会式					

	E 会場	ポスター会場		
	3F	12F		
	アートホテル弘前シティ オパール・ダイヤモンド	アートホテル弘前シティ スカイバンケット		
	8:30 ~ 9:30 一般口演19 摂食障害1 司会:松浦 広樹	8:30 ~ 15:20 ポスター 閲覧		
	9:40 ~ 10:40 一般口演20 強迫症・トラウマ 司会:三宅和佳子	9:40 ~ 10:40 ポスター13 心理社会的援助・家族支援1 司会:安藤 咲穂	9:40 ~ 10:10 ポスター16 心理社会的援助・家族支援2 司会:上野 千穂	9:40 ~ 10:25 ポスター19 精神療法・心理療法 司会:浦谷 光裕
	10:50 ~ 11:50 一般口演21 心理社会的援助・家族支援 司会:森岡由起子	10:50 ~ 11:50 ポスター14 摂食障害 司会:吉岡 靖史	10:50 ~ 11:20 ポスター17 乳幼児 司会:桑原 斉	10:50 ~ 11:20 ポスター20 入院治療2 司会:長沢 崇
	12:00 ~ 13:00 一般口演22 地域連携 司会:清田 晃生	12:00 ~ 12:45 ポスター15 症例 司会:藤田 梓	12:00 ~ 13:00 ポスター18 その他5 司会:武田 俊信	
	14:20 ~ 15:20 一般口演23 摂食障害2 司会:藤田 純一	15:00 ~ 15:20 撤去		

特別講演

1日目 A 会場

特別講演 1

日本の中世・近世史に影響を与えた津軽の秘史—史実と空想の狭間で—

司会：中村 和彦（弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座）

演者：大熊 洋揮（国立病院機構 弘前総合医療センター 院長・弘前大学名誉教授）

2日目 A 会場

特別講演 2

司会：中村 和彦（弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座）

療育手帳に係る判定基準統一化の検討進捗報告および実施協力について

演者：中山 美恵（厚生労働省 社会援護局 障害福祉部 企画課）

これからのこども政策について

演者：杉本 拓哉（こども家庭庁 支援局 障害児支援課）

会長講演

1日目 A 会場

会長講演

神経発達症群の生物学的研究と子どもの疫学研究

司会：岡田 俊（奈良県立医科大学精神医学講座）

演者：中村 和彦（弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座）

先達に聞く

2日目 A 会場

先達に聞く

最近の病態にみる思春期問題—前々思春期の提唱—

司会：小野 和哉（聖マリアンナ医科大学 神経精神科）

演者：牛島 定信（市ヶ谷ひもろぎクリニック（名誉院長））

シンポジウム

1日目 B 会場

シンポジウム 1

東日本大震災がもたらしたもの—我々は何を学び、何を残そうとしたのか—

司会：本多 奈美（東北大学大学院教育学研究科 教育心理学講座 臨床心理学分野）

司会：八木 淳子（岩手医科大学医学部神経精神科学講座・岩手医科大学附属病院児童精神科）

S1-1 福島の子どもたち—県民健康調査からの知見—

板垣俊太郎（福島県立医科大学 神経精神医学講座）

S1-2 みちのくこどもコホート—大災害後に生まれた子どもの育ち—

八木 淳子（岩手医科大学医学部神経精神科学講座・岩手医科大学附属病院児童精神科）

S1-3 被災した子どもへの初期対応（PFAの拡がり）と課題

福地 成（東北医科薬科大学医学部 精神科学教室、公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター）

- S1-4 日本児童青年精神医学会災害対策委員会の取り組みとあゆみ
ー災害時における児童精神科医ネットワークの構築へー
中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

1日目C会場

シンポジウム2

神経発達症を伴う摂食障害の支援に向けて

司会：高宮 静男（たかみやこころのクリニック）

司会：中里 道子（国際医療福祉大学成田病院精神科）

- S2-1 神経発達症を伴う摂食障害の特徴と支援
中土井芳弘（独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター児童精神科）
- S2-2 神経発達症合併における学校、とくに養護教諭との協力支援
高宮 静男（たかみやこころのクリニック）
- S2-3 神経発達症を併存した摂食障害における家族をベースとする治療
鈴木 太（上林記念病院こども発達センターあおむし）
- S2-4 認知機能改善療法（CRT）ー認知特性をターゲットとした支援について
公家 里依（信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部）

2日目B会場

シンポジウム3

最新のテクノロジーを用いた発達障害支援の現状と今後の課題

司会：奥野 正景（三国丘こころのクリニック）

司会：熊崎 博一（長崎大学医学部精神神経科学教室）

- S3-1 発達障害支援を念頭に置いたメタバース、ヒューマノイドロボット技術の開発
吉川雄一郎（大阪大学基礎工学研究科）
- S3-2 AI エージェント技術の現状と発達障害児支援の限界
寺田 和憲（岐阜大学工学部）
- S3-3 AI を用いた5歳児健診の潜在性
熊崎 博一（長崎大学医学部精神神経科学教室）
- S3-4 最新のテクノロジーを用いた発達障害児支援の倫理的課題
上出 寛子（名古屋大学）
指定発言：本多 奈美（東北大学大学院教育学研究科）

2日目C会場

シンポジウム4

今こそ正しく伝えよう、子どもたちに性のことを～子どもが自分で心と身体を守れるようにサポートする～

司会：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター 診療所）

司会：定本ゆきこ（京都少年鑑別所）

- S4-1 包括的性教育とは ～性被害、性虐待から子どもたちを守る～
上野 千穂（京都市第二児童福祉センター 診療所）
- S4-2 非行臨床における性の加害と被害
定本ゆきこ（京都少年鑑別所）
- S4-3 包括的性教育における産婦人科医師の役割～他職種とのつながりを活かして～
井上 聡子（さとこ女性クリニック）
- S4-4 子どもを暴力から守る CAP(キャップ) の取り組み
木村 里美（一般社団法人 J-CAPTA）

2日目 B会場

シンポジウム5

神経発達症の人たちの余暇活動支援

司会：本田 秀夫（信州大学）

司会：関 正樹（大湫病院）

S5-1 ASDのある児童・青年の特別な興味に寄り添うコミュニケーション支援

—会話型ロールプレイングゲームの可能性

加藤 浩平、藤野 博（東京学芸大学）

S5-2 療育センターでの仲間づくり支援プログラム開発から大学での生涯学習プログラム開発に至るまで

日戸 由刈（相模女子大学）

S5-3 ASDの特性に特化した余暇活動支援の探究

関根 礼子（特定非営利活動法人ネスト・ジャパン）

S5-4 診察室で子どもたちと好きなことについて語る意味

関 正樹（大湫病院）

2日目 C会場

シンポジウム6

SNSとその周辺

司会：関 正樹（大湫病院）

司会：樋端 佑樹（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室）

S6-1 SNSとつきあう準備—大人と子どものリテラシー

吉川 徹（愛知県医療療育総合センター 中央病院）

S6-2 子どもたちの居場所としてのSNS

関 正樹（大湫病院）

S6-3 ネットいじめなどSNSにまつわるリスク

樋端 佑樹（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室）

指定発言：木村 一優（医療法人社団新新会多摩あおば病院）

3日目 B会場

シンポジウム7

日常診療と子どものトラウマケア

司会：笠原 麻里（医療法人財団青溪会駒木野病院）

司会：亀岡 智美（公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター）

S7-1 総合病院精神科一般外来におけるトラウマケア

村上 伸治（川崎医科大学精神科学教室）

S7-2 岩手医科大学附属病院児童精神科におけるトラウマケア

八木 淳子（岩手医科大学医学部神経精神科学講座・岩手医科大学附属病院児童精神科）

S7-3 単科精神病院 児童精神科病棟におけるトラウマケア

岩垂 喜貴（駒木野病院）

S7-4 TSプロトコルを用いたディメンショナル・モデル診断による家族併行治療

杉山登志郎（浜松市こどものこころの診療所、福井大学子どものこころの発達研究センター）

指定発言：青木 省三（公益財団法人 慈圭会精神医学研究所）

3日目C会場

シンポジウム8

器物破損を繰り返す子どもたち—その病棟運営と治療的介入—

司会：堀川 直希（のぞえの丘病院）

司会：佐々木宏太（東京大学医学部付属病院 こころの発達診療部）

S8-1 病棟での破壊的行動

木戸口和樹（医療法人翠星会松田病院）

S8-2 多摩あおば病院に入院する子ども達の破壊行為～開設2年目の児童・思春期病棟の現状～

清野 聡子（医療法人社団新新会 多摩あおば病院）

S8-3 向陽台病院における3年間の事故状況から器物破損の検討

横田 周三（向陽台病院）

S8-4 器物破損のある子どもたちへの治療的介入と病棟運営

～児童思春期病棟開設3年目のあさかホスピタルにおける現状～

佐久間睦貴（社会医療法人あさかホスピタル）

教育講演

1日目B会場

教育講演1

児童福祉と児童精神科臨床—児童相談所は多くの可能性を秘めた主要な児童精神科臨床の場—

司会：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター 診療所）

演者：本間 博彰（公益財団法人 星総合病院）

1日目C会場

教育講演2

発達障害と非行—家裁調査官の経験から

司会：森岡由起子（聖学院大学 心理福祉学研究所）

演者：藤川 洋子（京都工芸繊維大学）

2日目A会場

教育講演3

脳科学からみる幼少期マルトリートメントの治療介入

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 医学部看護学科 人間発達学）

演者：山室 和彦（奈良県立医科大学 附属病院精神科）

2日目A会場

教育講演4

赦し認めあう生へ—複雑性 PTSD 経験の苦しみから自分の生を享受する方向へ—

司会：亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）

演者：村瀬嘉代子（大正大学・日本心理研修センター）

2日目A会場

教育講演5

青年期の臨床に求められているもの

司会：野邑 健二（名古屋大学 心の発達支援研究実践センター）

演者：青木 省三（慈圭会精神医学研究所）

2日目 A 会場

教育講演 6

自閉スペクトラム障害の問題提起行動とコミュニケーション支援

司会：本多 奈美（東北大学大学院教育学研究科 教育心理学講座 臨床心理学分野）

演者：門 眞一郎（フリーランス）

委員会セミナー

2日目 D 会場

子どもの人権と法に関する委員会パネルディスカッション

女子非行の理解と支援

司会：中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

司会：今村 明（長崎大学生命医科学域 保健学系 作業療法学分野）

女子非行の特徴について—医療の立場から

定本ゆきこ（京都少年鑑別所）

司法の場に現れる女子について

安保 千秋（都大路法律事務所）

女子少年院における社会復帰支援について

平田 哉（丸亀少女の家）

3日目 A 会場

福祉に関する委員会セミナー

障害児福祉：現在の制度における課題

司会：古田 洋子（埼玉県中央児童相談所）

司会：小林真理子（山梨英和大学）

障害者手帳の制度における課題

辻本 哲士（滋賀県立精神保健福祉センター）

わが国における「知的障害」の定義をめぐる課題

辻井 正次（中京大学）

障害児のいる家庭への経済的支援に関する制度の課題

本田 秀夫（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、長野県発達障がい情報・支援センター）

障害児支援サービス制度の課題

内山登紀夫（福島学院大学）

3日目 A 会場

教育に関する委員会セミナー

学校でのメンタルヘルスへのアプローチ～どう理解し、伝えるか～

司会：小野 和哉（聖マリアンナ医科大学 神経精神科）

司会：足立 匡基（明治学院大学心理学部心理学科）

子どものこころの問題に影響する個人および環境要因に関する学校での調査実施について

西村 倫子（浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター、公益社団法人子どもの発達科学研究所）

学校ベースのメンタルヘルス調査におけるフィードバックの活用

新川 広樹（弘前大学教育学部）

高校保健体育の学習指導要領に精神疾患が位置付けられた経緯と具体的な内容について

横嶋 剛（文部科学省）

2日目C会場

倫理委員会セミナー

改正精神保健福祉法の倫理的課題

司会：中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

司会：太田順一郎（岡山市こころの健康センター）

児童精神科入院治療における倫理的課題（架空事例を通して）

庄 紀子（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の改正に伴い児童精神科入院治療の現場で起きていること—全国児童青年精神科医療施設協議会による、親が虐待者である場合の医療保護入院に関する実態調査から—

中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

児童相談所における精神保健福祉法改正に伴う現状と課題

小平かやの（東京都児童相談センター）

3日目B会場

災害対策委員会セミナー

COVID-19 禍における子どもの育ち—現場からの声—

司会：岩垂 喜貴（医療法人財団青溪会 駒木野病院）

司会：中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

COVID-19 禍における子どもの育ち—児童精神科の立場から—

榎屋 二郎（東京医科大学精神医学分野 / 東京医科大学病院こどものこころ診療部門）

コロナ禍における周産期医療、保育所の現場から～総合病院精神科医の立場として～

柴田真理子（兵庫県立尼崎総合医療センター精神科）

新型コロナと子どもの育ち ～“コロナ禍”で見えてきた課題に対する取り組み報告～

遠藤香菜子（仙台市宮城野区保健福祉センター）

COVID-19 禍における岩手県の子どもの様子—教育の現場から—

三浦 光子（岩手医科大学いわてこどもケアセンター）

2日目C会場

国際学会連絡・国際交流資金運営委員会セミナー

Current Status and Countermeasures for Child Suicide from the perspectives of each country

司会（Chairperson）

Machi Kakimoto（柿元 真知）

Mie Prefectural Medical Center for Child Growth, Development and Disability（三重県立子ども心身発達医療センター）

冒頭あいさつ（Opening greetings） 5 min

Nagahide Takahash（高橋 長秀）

Department of Child and Adolescent Psychiatry, Nagoya University Graduate School of Medicine（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科）

発表（Presentation）

Presenter

1.“Population-attributable risk of psychiatric disorders for suicide among adolescents and young adults in Taiwan”（台湾）

Yi-An Hung

Department of Psychiatry, National Taiwan University Hospital, Taipei, Taiwan

2.“Current Status of Child and Adolescent Suicide in Korea: Are We There Yet?” (韓国)

Woo-Seok Choi

Department of Psychiatry, Seoul National University Hospital, Seoul, Korea

3.“Suicide Prevention and Welfare Policies for Children and Young Adults: A Comparison of France and Japan” (フランス)

Akiko Awa (安發 明子)

Ritsumeikan University Faculty of Human Science (立命館大学 人間科学研究科)

4.“Current Status and preventive effort of Child and Adolescent Suicide in Japan” (日本)

Takuya Saito (齊藤 卓弥)

Department of Child and Adolescent Psychiatry, Graduate School of Medicine, Hokkaido University (北海道大学大学院医学研究院 児童思春期精神医学分野)

総合討論 (Discussion)

司会 (Chairperson)

Tomoko Shimanouchi (島内 智子)

Department of Psychiatry, St.Marianna University, School of Medicine (聖マリアンナ医科大学 神経精神科)

Closing remark -

Yukiko Kano (金生 由紀子)

Department of Child Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, University of Tokyo (東京大学大学院医学系研究科 こころの発達医学分野)

2日目 B会場

薬事委員会セミナー

改訂された注意欠如・多動症－ ADHD －の診断・治療ガイドラインをどのように臨床に活かすか

司会・コーディネータ：根来 秀樹 (一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん)

司会・コーディネータ：辻井 農重 (富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座)

ガイドラインに基づく ADHD の評価・診断とその治療

宇佐美政英 (国立国際医療研究センター 国府台病院 児童精神科)

ADHD の非薬物療法

岡崎 康輔 (一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん)

ADHD 治療における非中枢神経刺激薬の役割

木原 弘晶 (金沢医科大学病院 精神神経科)

ADHD 治療における中枢神経刺激薬の役割

堀内 史枝 (愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座)

益と害のバランスを踏まえた中枢神経刺激薬の処方

藤田 純一 (横浜市立大学附属病院 児童精神科)

2日目 D会場

心理職に関する委員会セミナー

自閉スペクトラム症の心理アセスメント

司会：吉川 徹 (愛知県医療療育総合センター 中央病院)

司会：福田 理尋 (岡山県精神科医療センター)

診断につながるアセスメント (ADOS, ADI-R など)

黒田 美保 (田園調布学園大学)

障害特性に関するアセスメント

岡田 智 (北海道大学 教育学研究院)

支援につながるアセスメントーボストン・プロセス・アプローチからの示唆ー

桑野 恵介 (株式会社スペクトラムライフ)

青年期・成人期のメンタルヘルスの問題への気づき

千田 若菜（ながやまメンタルクリニック）

3日目 C 会場

ICD-11 に関する委員会セミナー

児童青年期にみられる精神疾患の ICD-11 における診断分類

司会・コーディネータ：中村 和彦（弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座）

司会・コーディネータ：根来 秀樹（一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん）

ICD-11 と記述精神医学

高岡 健（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター）

ICD-11 における精神病的障害（精神症）

大西 雄一（東海大学医学部総合診療学系精神科学）

ICD-11 における神経発達症群

太田 豊作（奈良県立医科大学 医学部看護学科人間発達学）

ゲーム行動症と危険なゲーム行動—採否をめぐる論争を振りかえる—

吉川 徹（愛知県医療療育総合センター 中央病院）

2日目 B 会場

生涯教育に関する委員会セミナー

自閉スペクトラム症を学ぶ

司会：三上 克央（東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学）

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 医学部看護学科人間発達学）

概念の歴史

尾崎 仁（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）

病 因（遺伝要因を中心に）

加藤 秀一（名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科）

診 断

岡崎 康輔（一般財団法人信貴山病院 ハートランドしぎさん）

治療と支援

岩佐 光章（横浜市総合リハビリテーションセンター 発達精神科、横浜市西部地域療育センター）

指定発言：小坂 浩隆（福井大学医学系部門病態制御医学講座精神医学）

学会顕彰記念講演

1日目 A 会場

優秀論文賞

COVID-19 によって生じた学業への不安が大学生のメンタルヘルスや社会機能に及ぼす影響

武田 知也（人間環境大学総合心理学部総合心理学科）

研究奨励賞

漢字熟語呈示時の脳磁図反応について

江頭 優佳（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部）

実践奨励賞

児童思春期のメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

宇佐美政英（国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科一同）

国際学会発表奨励賞

児童精神科医療における自閉スペクトラム症に関する遺伝カウンセリング：孤発例と多発家系それぞれにおける遺伝カウンセリングを例に

加藤 秀一（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科）

国際学会発表奨励賞

新型コロナウイルス禍による経済的影響と発達特性を有する5歳児のメンタルヘルス

坂本 由唯（弘前大学医学部附属病院 神経科精神科）

共催セミナー

2日目 A 会場

共催セミナー1（ノーベルファーマ株式会社 / 株式会社メディパルホールディングス）

司会：岡田 俊（奈良県立医科大学精神医学講座）

神経発達症とトラウマとアタッチメント—子どもを多角的にみても包括的に支援すること—

八木 淳子（岩手医科大学医学部神経精神科学講座・岩手医科大学附属病院児童精神科）

2日目 B 会場

共催セミナー2（武田薬品工業株式会社）

司会：三上 克央（東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学）

注意欠如多動症に対する心理社会的治療および薬物療法

小平 雅基（総合母子保健センター愛育クリニック 小児精神保健科）

3日目 A 会場

共催セミナー3（大塚製薬株式会社）

司会：菊知 充（金沢大学金沢大学医薬保健研究域医学系 精神行動科学）

児童精神科領域におけるロボットを用いた支援の可能性

熊崎 博一（長崎大学医学部精神神経科学教室）

症例検討

1日目 A 会場

症例検討1

司会：野邑 健二（名古屋大学 心の発達支援研究実践センター）

スーパーバイザー：杉山登志郎（福井大学子どものこころの発達研究センター）

怒りに突き動かされ、孤立していた男児との入院治療を通じて

箱島 有輝（国立国際医療研究センター国府台病院）

1日目 B 会場

症例検討2

司会：小野 和哉（聖マリアンナ医科大学 神経精神科）

スーパーバイザー：市川 宏伸（日本発達障害ネットワーク）

自閉性カタトニアを抱える青年への心理・教育的アプローチの実践

松本 拓真（岐阜大学）

1日目C会場

症例検討3

司会：三上 克央（東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学領域）

スーパーバイザー：松本 英夫（医療法人 丹沢病院）

東邦大学医療センター大森病院における児童摂食障害症例の治療について

山口 大樹（東邦大学医学部精神神経医学講座）

1日目D会場

症例検討4

司会：辻井 農亜（富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座）

スーパーバイザー：田中 究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）

幻覚妄想状態で引きこもりの息子と拡大自殺を企てた母親を医療観察法制度下の治療を行っていく中で

息子が引きこもりから脱却した症例

辻 里花、吉岡 眞吾（愛知県精神医療センター）

1日目E会場

症例検討5

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 医学部看護学科 人間発達学）

スーパーバイザー：生地 新（北里大学大学院医療系研究科 発達精神医学）

幼少期の虐待により反応性アタッチメント障害を発病した女児の治療過程

原田健一郎（山口大学医学部附属病院 精神科神経科）

2日目E会場

映画

映画 自主上映「プリズン・サークル」

企画：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター 診療所）

一般演題（口頭発表）

2日目D会場

PDD 1

司会：松崎 秀夫（福井大学 子どものこころの発達研究センター 脳機能発達研究部門）

01-1 自閉スペクトラム症成人における脳内グルタミン濃度の検討

○松崎 秀夫^{1,2}、平井 孝治³、梅田 尚子³、辻井 正次^{4,5}

1. 福井大学子どものこころの発達研究センター、
2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所、
3. 福井大学学術研究院医学系部門看護学領域、
4. 浜松医科大学子どものこころの発達研究センター、
5. 中京大学現代社会

01-2 発達障害外来児に対するロボットによるブレパレーションの有用性の検討：予備的研究

○石井 あずさ¹、奥泉 大地²、熊崎 博一¹、吉川 雄一郎³

1. 長崎大学大学院医歯薬総合研究科未来メンタルヘルス学分野、
2. 北水会記念病院、
3. 大阪大学 基礎工学研究科 システム創成専攻

01-3 クラウドソーシングを用いた自閉スペクトラム症児の睡眠と発達に関する研究

○清水 日智¹、山本 直毅¹、今村 明¹、熊崎 博一^{1,2}

1. 長崎大学病院精神神経科、
2. 岐阜大学工学部

01-4 新型ハグロボット「Moffuly（モフリー）」の使用によるハグされる安心感の検討

○西川 菜月¹、大西 裕也²、住岡 英信²、塩見 昌裕²、今村 明³、熊崎 博一¹

1. 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、
2. 株式会社国際電気通信基礎技術研究所、
3. 長崎大学生命医科学域

2日目D会場

PDD 2

司会：大瀧 和男（かずおメンタルクリニック）

02-1 強迫関連現象の出現をきっかけに、不安・コミュニケーション・感覚の特異性を中心に再評価し、自閉スペクトラム症への診断再考に至った8歳男児の一例

○鈴木 龍太郎¹、中島 康輔¹、神谷 俊介^{1,2}、小野 剛³、稲田 健²

1. 北里大学医学部 地域児童精神科医療学、
2. 北里大学医学部精神科学、
3. 東日本少年矯正医療・教育センター

02-2 「聞こえ」の問題を訴える自閉スペクトラム症の聴覚検査の検討

○三好 紀子¹、松本 恵²、中川 あや³、池田 学²

1. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所子どものこころの分子統御機構研究センター、
2. 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学、
3. 市立池田病院 耳鼻いんこう科

02-3 社会的コミュニケーションの主観的困難さに関する自記式質問紙票（Difficulty in Social Communication-15: DISC-15）の開発に向けた予備的研究

○石橋 孝勇、玉城 美波、近藤 毅

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

02-4 若年層における Difficulty in Social Communication-15（DISC-15）と自閉特性および社交不安との関連

○玉城 美波、石橋 孝勇、近藤 毅

琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

2日目D会場

PDD 3

司会：太田 豊作（奈良県立医科大学 医学部看護学科人間発達学）

03-1 母子共に ASD 特性を有する親子が、情緒的交流を回復させて母子関係の危機を乗り越えた一例

○小野 剛^{1,2}、鈴木 龍太郎³、吉村 有希²、中島 康輔³、神谷 俊介^{2,3}、稲田 健²

1. 東日本少年矯正医療・教育センター、
2. 北里大学医学部精神科学、
3. 北里大学医学部地域児童精神科医療学

03-2 診断閾値下の自閉症スペクトラム児をどう扱うかークリニックでできることー

○大瀧 和男¹、大瀧 近子²

1. 医療法人和音会かずおメンタルクリニック、
2. 医療法人和音会かずおの森

03-3 診断閾値下の自閉症スペクトラム児をどう扱うかー児童発達支援でできることー

○大瀧 近子¹、大瀧 和男²

1. 医療法人和音会かずおの森、
2. 医療法人和音会かずおメンタルクリニック

03-4 自閉スペクトラム症幼児の記憶特性一検索が転移に及ぼす効果一

○堀田 千絵¹、十一 元三²

1. 京都市立芸術大学・神経発達症研究推進機構、
2. 京都大学名誉教授・神経発達症研究推進機構

2日目D会場

PDD 4

司会：板垣 俊太郎（福島県立医科大学 神経精神医学講座）

04-1 衝突を繰り返すなかで見えてきたA君の苦しみと成長

時里 晋一郎

のぞえの丘病院

04-2 自閉スペクトラム症を有する大学生の修学支援について①「合理的配慮」の前提としてのアセスメントの在りかた

○藤川 洋子、三好 智子

京都工芸繊維大学

04-3 自閉スペクトラム症を有する大学生の修学支援について：②有効な支援としてのピア・チューター活動

○三好 智子、藤川 洋子

京都工芸繊維大学

04-4 潜在意味解析と感情分析の時系列分析をした発達障害の一例

○簡野 宗明、高橋 奈那、網干 岳、沼沢 卓真、佐藤 文佳、山口 裕子、吉田 夕佳、藤橋 桃子

山形大学医学部 精神科

2日目E会場

発達障害

司会：太田 英伸（秋田大学大学院 医学系研究科作業療法学講座）

05-1 外在化障害評価尺度 ADHD-rating scale-5 と Disruptive Behavior Disorders Rating Scale の心理測定学研究：養育者と教師からの報告をどのように使えば良いか？

○西山 毅¹、石橋 佐枝子^{3・8}、鈴木 太^{4・5・7}、牧野 拓也^{2・4・5・9}、中道 秀尚⁴、飯田 知子^{4・5・9}、島田 尚子^{4・5・9}、渡真利 真治^{2・5}、今成 英司^{2・5}、東 琢磨^{2・5}、福元 進太郎^{2・5}、倉田 佐和^{2・5}、木村 拓磨⁶、森本 武志^{4・5}、小坂 浩隆^{2・4・5・9}

1. 名古屋市立大学大学院 医学研究科 公衆衛生学、
2. 福井大学大学院 医学系研究科 精神医学、
3. 敦賀市立看護大学 看護学部、
4. 福井大学 子どものこころの発達研究センター、
5. 福井大学医学部附属病院 子どものこころ診療部、
6. 東海学園大学 教育学部、
7. 上林記念病院 こども発達センターあおむし、
8. 福井大学大学院 先端応用医学コース 器官再生医学部門、
9. 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所 福井校

05-2 早産出生の乳幼児の活動・睡眠特性と精神発達

○太田 英伸^{1・2・3}、COI stream Group^{4・5・6・7・8・9・10・11・12}

1. 秋田大学大学院 医学系研究科 作業療法学講座、
2. 国立精神・神経医療研究センター 睡眠・覚醒障害研究部、
3. 静和会 浅井病院 精神科、
4. 北海道大学病院、
5. 札幌市立病院、
6. 秋田大学大学院、
7. 金沢大学附属病院、
8. 聖路加国際病院、
9. 東邦大学医療センター、
10. 大森病院、
11. 日本赤十字社医療センター、
12. 三重大学

05-3 注意欠如多動症における時間知覚と生活習慣の関係

○義村 さや香、吉川 麟作

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系 作業療法学講座

05-4 自閉スペクトラム症における感覚処理と気分状態との関連

○吉川 麟作、義村 さや香

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系 作業療法学講座

2日目E会場

ゲーム

司会：鈴木 太（上林記念病院こども発達センターあおむし）

06-1 のぞえの丘病院におけるゲーム・ネット依存グループの歩み

ーネットでしか繋がれなかったメンバーの“リアルなつながり”のかたちー

○上西 章人、堀川 直希、安澤 英紀、野田 明希

のぞえの丘病院

06-2 ICD-11 ゲーム行動症の診断基準にみられる問題点

○井出 草平¹、中川 譲¹、牧野 拓也^{2・5}、鈴木 太^{3・4}

1. 多摩大学情報社会研究所、
2. 福井大学医学部精神医学、
3. 上林記念病院 こども発達センターあおむし、
4. 福井大学子どものこころの発達研究センター地域こころの支援部門、
5. 大阪大学大学院・大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

- 06-3 子どものインターネット利用と子どもの情緒、行動との関連についての検討**
 ○須山 聡¹、西木 百合子^{2,3}、福屋 吉史^{4,5}、山脇 かおり⁶、小川 しおり⁷、石塚 一枝⁸
 1. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門、
 2. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科、
 3. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達診療部、
 4. あさかホスピタル総合心療科、5. 東邦大学医学部精神神経医学講座、
 6. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科、
 7. 日本福祉大学 教育・心理学部、8. 成育医療研究センター研究所 社会医学研究部
- 06-4 インターネット依存・ゲーム障害の子どもを持つ家族へのアプローチ CRAFT を参考にした心理教育の効果－**
 ○森田 浩司、花房 昌美
 独立行政法人 大阪精神医療センター

2日目 E会場

症例1

司会：鬼頭 有代（医療法人いちえ 有希クリニック）

- 07-1 鉄剤の過量内服により肝不全をきたしたが、急性鉄中毒に対応できる医療機関が見つからず転院調整に難航した一例**
 ○佐久田 静、丹羽 篤、山形 祥礼、橋本 衛
 近畿大学病院 精神神経科学教室・メンタルヘルス科
- 07-2 書痙が併存したうつ病の思春期女性の一例**
 古堅 祐行
 医療法人研成会 札幌鈴木病院 心療内科 メンタルヘルス科
- 07-3 FBT（Family based treatment for adolescent anorexia nervosa）の要素を取り入れた外来治療にて回復した神経性やせ症の女兒例**
 菊地 澄恵
 未来の風せいわ病院
- 07-4 一卵性双生児に発症した摂食障害の2例－摂食障害における感応性－**
 ○中村 博大^{1,2}、柳橋 達彦²、倉田和美²、稲川優多¹、須田史朗¹
 1. 自治医科大学精神医学講座、2. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター子どもの心の診療科

2日目 E会場

症例2

司会：金井 講治（大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター）

- 08-1 無水エタノール服毒による初回自殺企図の13歳女兒に対して集中治療室での入院治療が「holding environment」を果たした一例**
 ○小田 暁^{1,3}、萩原 将孝^{1,3}、石山 雄一¹、大西 雄一²、山本 賢司²、三上 克央²
 1. 東海大学医学部付属八王子病院 精神科、2. 東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学、
 3. 医療法人 弘徳会 愛光病院

08-2 小児の精神状態把握のための10秒呼吸法下での心拍変動測定の有用性
端谷 毅
はしたにクリニック

08-3 10秒呼吸法の小児精神疾患への改善効果（症例報告）
端谷 毅
はしたにクリニック

2日目E会場

リエゾン・治療連携

司会：山田 敦朗（名古屋市立大学 大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

09-1 幻聴を主とした症状で小児科から紹介され、統合失調症の初発エピソードか解離性幻聴かの診断・治療に苦慮した1例
○坂田 幹樹^{1,2}
1. 医療法人 白水会 紀泉病院、2. 医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 心療内科・精神科

09-2 小児がん患者における疾病受容評価法開発とその実施による探索的検討
○田中 恭子、小林 まどか
国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

09-3 発達障害を有する子供の感覚の過敏性とアレルギー性疾患の関連性について
山口 若菜
北九州市立総合療育センター

09-4 抗精神病薬の効果が乏しくメラトニンが著効した小児のせん妄の1例
○高瀬 菜々子、長沢 崇
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科

2日目E会場

その他

司会：藤川 洋子（京都工芸繊維大学）

010-1 子どものLGBT（Lesbian、Gay、Bisexual、Transgender）対応の現状
中山 浩
川崎市こども家庭センター

010-2 若年層の自死予防における学生ボランティアサークル「YELL」の活動
○林 みづ穂
仙台市精神保健福祉総合センター

010-3 児童青年期のメンタルヘルスケアに従事する心理士の業務実態—日本児童青年精神医学会における心理職会員への動向調査より
○金子 一史¹、小平 雅基²、今村 扶美³、岡田 智⁵、桑野 恵介⁴、中里 容子⁶、福田 理尋⁷、大賀 肇¹⁰、吉川 徹⁸、本多 奈美⁹
1. 名古屋大学心の発達支援研究実践センター、
2. 恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター 愛育クリニック、
3. 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床心理部、4. 株式会社スペクトラムライフ、
5. 北海道大学教育学研究院、6. 明治大学子どものこころクリニック、
7. 岡山県精神科医療センター、8. 愛知県医療療育総合センター中央病院、
9. 東北大学大学院教育学研究科、10. 医療法人仁精会三河病院

O10-4 子どもの孤独感と自傷行為との関連に関する縦断研究

○福屋 吉史^{1,2}、石塚 一枝³、山脇 かおり⁴、須山 聡⁵、西木 百合子^{6,7}

1. あさかホスピタル総合心療科、
2. 東邦大学医学部精神神経医学講座、
3. 成育医療研究センター研究所社会医学研究部、
4. 国立障害者リハビリテーションセンター病院小児科・児童精神科、
5. 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
6. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科、
7. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達診療部

3日目 A 会場

入院治療1

司会：清水 日智（長崎大学病院精神神経科）

O11-1 入院治療による行動障害の軽減 ～知的障害を持つ広汎性発達障害児の一例～

○鳥井 麻緒¹、鷺野 千秋¹、伊藤 京子¹、久納 一輝²、中島 弘道¹、中西 大介¹

1. 三重県立子ども心身発達医療センター、
2. 三重県立こころの医療センター

O11-2 言語表出の顕著な苦手を認めた小5男児に対し、ベースを介した関わりによる個別 Social Skills Training を行った症例

○永田 浩貴¹、打田 彩夏²、中西 大介¹

1. 三重県立子ども心身発達医療センター、
2. 三重県中勢児童相談所

O11-3 攻撃性、感情調整の問題を伴う神経発達症児の入院における変化に関する研究

○北村 紗緒梨¹、松浦 直己²、鷺野 千秋¹、中西 大介¹

1. 三重県立子ども心身発達医療センター、
2. 三重大学教育学部特別支援教育講座

O11-4 児童思春期病棟入院患者を対象とした多職種での SST の取り組み

○和田 浩平、國井 千瑛里

医療法人 仁精会 三河病院

3日目 B 会場

入院治療2

司会：水本 有紀（国立国際医療研究センター国府台病院）

O12-1 思春期病棟における任意入院の意義と地域連携

○遠藤 季哉、中川 吉丈、川久保 綾香、根路銘 要太、持田 藍、吉井 亜希子、久保木 寛将
東京さつきホスピタル 発達・思春期精神科

O12-2 日本における児童精神科入院治療の現状と展望

○長沢 崇¹、島内 智子²

1. 地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科、
2. 聖マリアンナ医科大学 神経精神科

O12-3 任意入院の動機づけを維持しつつ、病棟の治療構造の中で成長した思春期女子の一例

○根路銘 要太、吉井 亜希子、持田 藍、川久保 綾香、久保木 寛将、中川 吉丈、遠藤 季哉
特定医療法人研精会 東京さつきホスピタル

O12-4 解離症状を呈する母を支え希死念慮と醜形恐怖を訴え続けた不登校中学女児の入院治療～治療チームの視点から～

○水本 有紀¹、砂川 ひかる²、箱島 有輝¹、稲崎 久美¹、宇佐美 政英¹

1. 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、
2. 国立病院機構下志津病院 小児科

3日目C会場

不登校・ひきこもり

司会：栗林 英彦（岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター発達精神医学研究所）

013-1 緘黙のひきこもり青年4名への就労支援の取り組み

～ひきこもり支援の新たな支援モデルの提案と考察～

○横田 裕幸^{1,2}、山本 彩³

1. 一般社団法人こころとキャリアの発達支援推進機構、2. 大阪芸術大学、3. 札幌学院大学

013-2 コロナ禍における不登校の原因と予後に関連する因子についての後方視的検討

○佐藤 亜希子¹、千代田 高明¹、松本 貴智¹、川崎 由希子¹、和田 知紘¹、横倉 俊也¹、伊瀬 陽子²、
國井 泰人^{1,3}、増子 博文¹、板垣 俊太郎¹

1. 福島県立医科大学神経精神医学講座、2. 福島県総合療育センター、
3. 東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

013-3 不登校児童と登校児童におけるゲーム使用状況の検討

○木戸 瑞江、金平 隆彰、木曾田 大、中村 祐

香川大学医学部附属病院精神神経科

013-4 不登校の原因が副腎皮質機能低下症であった2例の報告

佐村 瑞恵^{1,2}

1. 田崎病院、2. さむら脳神経クリニック

3日目D会場

乳幼児

司会：内山 登紀夫（大正大学心理社会学部臨床心理学科）

014-1 地域における3歳児の調査での、社会性の発達に遅れのある子どもの睡眠習慣と行動の問題との関連

○照井 藍¹、斉藤 まなぶ²、坂本 由唯³、三上 珠希²、大里 絢子²、中村 和彦¹

1. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座、
2. 弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科、
3. 弘前大学医学部附属病院神経科精神科

014-2 母子手帳のさらなる科学的活用にむけて

○廣田 智也^{1,2}、斉藤 まなぶ³、坂本 由唯²、中村 和彦²

1. カリフォルニア大学サンフランシスコ校、2. 弘前大学医学部神経精神科、
3. 弘前大学医学部心理支援科学科

014-3 Screening for Social Development-14 (SSD-14) と3歳児の行動及び言語発達との関連

○斉藤 まなぶ¹、大里 絢子¹、三上 珠希¹、坂本 由唯²、照井 藍²、中村 和彦²

1. 弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科、
2. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

014-4 1歳6か月においてゲームをしている子どもの特徴－1歳半及び3歳半健康診査問診票を用いた後ろ向きコホート研究

○内山 登紀夫^{1,2,4}、川島 慶子²、鈴木 さとみ¹、安部 郁子³

1. 大正大学、2. 福島学院大学、3. 福島大学、4. よこはま発達クリニック

3日目D会場

学校保健1

司会：林 みづ穂（仙台市精神保健福祉総合センター）

015-1 読み書き困難をもつ学童のプロフィールとグループ化

○柳生 一自^{1・2・3}、末田 慶太郎³、橋本 竜作^{3・4}

1. 北海道医療大学心理科学部、
2. 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
3. 札幌市子ども心身医療センター児童精神科、
4. 北海道医療大学リハビリテーション科学部、

015-2 高校生eスポーツ部活動における人付き合いの変化についての検討

○城野 匡¹、杉本 啓介²、松本 武士²、弟子丸 元紀²

1. 熊本学園大学社会福祉学部、
2. 希望ヶ丘病院

015-3 特別支援学校との連携で実施した地域の学校への支援が子どもへの治療的効果をもたらした2症例

○宮田 光顕、伊藤 京子、中西 大介

三重県立子ども心身発達医療センター

015-4 子どもの可能性を拓げるために大人ができること

○関 晋太郎¹、吉岡 豊博²

1. 医療法人 三家クリニック、
2. 大東市立 南郷小学校

3日目D会場

外来・入院統計

司会：高岡 健（岐阜県立希望が丘子ども医療福祉センター）

016-1 乳幼児健診で発達の遅れが疑われた児童の療育手帳申請状況

○峯川 章子^{1・2・4}、西牧 謙吾^{3・4}

1. 大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター小児科／発達障がい者支援室、
2. 大阪市中央子ども相談センター、
3. 独立行政法人国立病院機構 新潟病院、
4. 大阪公立大学大学院医学研究科 発達小児医学

016-2 岡山県精神科医療センターの児童思春期精神科診療における初診待機短縮に向けた取り組みの現状と課題

○塚原 優、古田 大地、齊藤 慧、大重 耕三、来住 由樹

地方独立行政法人岡山県精神医療センター 医局

016-3 三河病院における児童思春期病棟開設後4年間の統計から見えてくること～現状と課題の考察～

大賀 肇

三河病院

016-4 児童精神科を受診した子どもを対象とした、自記式および親評定式の2種類の質問紙を用いたゲーム行動症スクリーニング陽性率の比較

○館農 勝^{1・2・3}、下出 崇輝^{3・4}、南波 江太郎^{1・2}、白石 映里²、杉山 紗詠子^{2・5}、松井 知理^{2・6}、
下村 遼太郎^{1・2}、館農 幸恵²

1. ときわ病院、
2. ときわ子ども発達センター、
3. 札幌医科大学附属病院神経精神科子どもメンタルクリニック、
4. しもでメンタルクリニック平岸分院、
5. 北海道立子ども総合医療・療育センター、
6. 島松病院

3日目D会場

学校保健2

司会：内出 希（岩手医科大学神経精神科学講座）

017-1 子どもの健康課題解決のための学校と専門職者との連携協働に関する検討（1）

ー課題解決を担う校内組織の分析ー

○綿井 雅康^{1,3}、采女 智津江^{1,2}、生天目 聖子^{1,4}、十一 元三¹

1. 神経発達症研究推進機構、
2. 順天堂大学 スポーツ・健康学部、
3. 十文字学園女子大学教育人文学部、
4. 滋賀県心の教育相談センター

017-2 子どもの健康課題解決のための学校と専門職者との連携協働に関する検討（2）

ー課題解決を担う校内組織の分析ー

○綿井 雅康^{1,2}、采女 智津江^{1,3}、生天目 聖子^{1,4}、十一 元三¹

1. 神経発達症研究推進機構、
2. 十文字学園女子大学教育人文学部、
3. 順天堂大学スポーツ健康科学部、
4. 滋賀県心の教育相談センター

017-3 東日本大震災被災地域の子どものメンタルヘルスと学校における集団活動の関連について

○松木 佑⁴、吉田 弘和²、北川 佳奈⁵、遠藤 愛子⁵、小林 奈津子¹、菊地 紗耶¹、本多 奈美³、大塚 達以¹、富田 博秋⁴

1. 東北大学病院 精神科、
2. 宮城県立精神医療センター、
3. 東北大学大学院教育学研究科 教育心理学講座 臨床心理学分野、
4. 東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野、
5. 東北福祉大学せんだんホスピタル

017-4 保育園における教員と子どもの相互交流トレーニングの実践

○加藤 郁子¹、上地 彩香²、川崎 雅子²、加茂 登志子³

1. さいたま市子ども家庭総合センター、
2. 一般（社）日本PCIT研修センター、
3. 若松町こころとひふのクリニック

3日目D会場

虐待

司会：早川 洋（こどもの心のケアハウス 嵐山学園（児童心理治療施設））

018-1 訪問型児童虐待予防プログラム SafeCare についてーその概要ー

近藤 強

チヨダクリニック 精神科 心療内科 児童精神科

018-2 被虐待児の委託一時保護入院をめぐる様々な法的、倫理的課題～事例からの考察～

古橋 功一

独立行政法人国立病院機構東尾張病院

018-3 児童相談所におけるトラウマインフォームドケアの実践と診療所の役割～10年の歩みを振り返って～

○加藤 良美¹、亀岡 智美²

1. 大阪府中央子ども家庭センター、
2. 兵庫県こころのケアセンター

018-4 小児期逆境体験を有し、大人を信用する事が出来ないA子への多職種によるアプローチ

○矢野 庄一郎、堀川 智史、堀川 公平

のぞえ総合心療病院

3日目 E会場

摂食障害 1

司会：松浦 広樹（和歌山県立医科大学神経精神医学教室）

O19-1 孤独感と思春期やせの関連の検討：全国縦断調査の結果より

○山脇 かおり^{1,2}、西木 百合子^{3,4}、福屋 吉史^{5,6}、須山 聡⁷、金田 文香⁸、石塚 一枝⁸

1. 国立成育医療研究センター 教育研修部、
2. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 小児科・児童精神科、
3. 東京都立小児総合医療センター 児童思春期精神科、
4. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達診療部、
5. あさかホスピタル総合心療科、
6. 東邦大学医学部精神神経医学講座、
7. 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、
8. 国立成育医療研究センター 研究所 社会医学研究部

O19-2 男性の神経性やせ症はどう治療するか？ Family Based Treatment が有効だった男子高校生

○眞田 陸^{1,2,3}、西川 公平^{3,4}、鈴木 太^{2,5}、小坂 浩隆^{1,2}

1. 福井大学医学部精神医学、
2. 福井大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
3. 滋賀医科大学精神医学講座、
4. CBT センター、
5. 上林記念病院子ども発達センターあおむし

O19-3 摂食障害患者の初回入院治療における目標体重の検討

○倉田 和美¹、柳橋 達彦¹、稲川 優多²、中村 博大²、須田 史朗²

1. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター子どもの心の診療科、
2. 自治医科大学精神科

O19-4 思春期の親子における体型に関する意識が影響する要因の検討

○松本 優¹、細川 里瑛¹、河邊 憲太郎²、岡澤 麻耶¹、井上 彩織¹、曾我 純也¹、堀内 史枝²、上野 修一¹

1. 愛媛大学大学院医学系研究科 分子・機能領域 精神神経科学講座、
2. 愛媛大学大学院医学系研究科 児童精神医学講座

3日目 E会場

強迫症・トラウマ

司会：三宅 和佳子（兵庫県こころのケアセンター）

O20-1 児童青年期の強迫症を予測する子どもの行動チェックリスト（CBCL）項目の検討

○牧野 拓也^{1,2,3,4}、井出 草平^{5,6}、眞田 陸^{2,4}、福元 進太郎^{2,4}、東 琢磨^{2,4}、今成 英司^{2,4}、渡真利 眞治^{2,4}、鈴木 太^{1,2,7}、小坂 浩隆^{1,2,4}、西山 毅⁸

1. 福井大学子どものこころの発達研究センター、
2. 福井大学子どものこころ診療部、
3. 大阪大学 大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連小児発達学研究所、
4. 福井大学医学部精神医学、
5. 多摩大学情報社会学研究所、
6. 大阪大学全学教育推進機構、
7. 上林記念病院こども発達センターあおむし、
8. 名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学

O20-2 子どもの強迫症における感覚プロファイル

○山根 謙一、高田 加奈子、松本 美菜子、岩屋 悠生、香月 大輔、山下 洋
九州大学病院 子どものこころの診療部

O20-3 全国の子ども病院におけるトラウマインフォームドケアについての調査

三宅 和佳子^{1,2}

1. 兵庫県こころのケアセンター、
2. 大阪母子医療センター 子どものこころの診療科

020-4 解離と幻覚 その関係性と治療アプローチ

吉村 淳

東北医科薬科大学病院

3日目E会場

心理社会的援助・家族支援

司会：森岡 由起子（聖学院大学心理福祉学研究所）

021-1 ヤングケアラー経験が青年期のメンタルヘルスに与える影響①

○松崎 裕香^{1,3}、小野 美樹¹、佐藤 みのり²、井上 猛¹

1. 東京医科大学精神医学分野、2. 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科、3. 柏崎厚生病院

021-2 ヤングケアラー経験が青年期のメンタルヘルスに与える影響②

○小野 美樹¹、松崎 裕香^{1,2}、佐藤 みのり³、井上 猛¹

1. 東京医科大学精神医学分野、2. 柏崎厚生病院精神科、
3. 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科

021-3 慢性疾患児の家族支援における課題：保護者のストレス反応と社会的孤立

○小林 まどか¹、田中 恭子²

1. 国立成育医療研究センター こころの診療部、
2. 国立成育医療研究センター こころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科

021-4 子どもたちの思いを治療に生かすための工夫

～母親の育児放棄により安定した養育がうけられなかったA子との治療から～

○中尾 有希、山口 洋介、堀川 直希

1. 医療法人コミュニティ風と虹 のぞえの丘病院

3日目E会場

地域連携

司会：清田 晃生（大分療育センター）

022-1 子どもの自殺予防を視野に入れた連携協働システムについて

－OODA（Observe → Orient → Decide → Act →）ループの活用を視野に考える－

○岡田 倫代¹、中土井 芳弘²、藤川 愛³

1. 高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻、
2. 四国こどもとおとなの医療センター、3. 高松市保健所

022-2 長崎県大村市におけるメンタルケア・アドバイザー医派遣事業の紹介と実践報告

○野口 知洋、宮田 雄吾

医療法人カメラリア大村共立病院

022-3 滋賀子ども心の診療ネットワークの構築と活動

○稲垣 貴彦^{1,2}、宇野 正章³

1. 医療法人明和会 琵琶湖病院、2. 滋賀医科大学 精神医学講座、
3. パームこどもクリニック

022-4 “叩けよ、さらば開かれん（マタイ福音書7）”

－2023年4月1日施行の名古屋市独自の一時保護委託児の精神科入院加算制度の紹介－

○吉岡 真吾¹、丸山 洋子²

1. 愛知県精神医療センター、
2. 名古屋市中央児童相談所 主査（医学的指導・児童精神科医師）

3日目 E会場

摂食障害2

司会：藤田 純一（横浜市立大学附属病院児童精神科）

O23-1 時系列データを用いた新型コロナウイルス感染症と10代の神経性やせ症との関連に関する実証研究

○福屋 吉史^{1,2}、船渡川 智之²、山口 大樹²、大岡 美奈子³

1. あさかホスピタル総合心療科、
2. 東邦大学医学部精神神経医学講座、
3. 東邦大学医療センター大橋病院心の診療科

O23-2 コロナ禍が大阪市立総合医療センター児童青年精神科の神経性やせ症の入院治療に与えた影響

○狩野 静香、松本 慶太

大阪市立総合医療センター 児童青年精神科

O23-3 思春期摂食障害患者28名に対するFamily Based Treatmentの実践報告

～医療機関と民間カウンセリングルームの連携～

○西川 公平^{1,2,3}、稲垣 貴彦^{2,4}、眞田 陸^{2,5}

1. CBTセンター、
2. 滋賀医科大学精神医学講座、
3. 一般社団法人CBT研究所、
4. 琵琶湖病院、
5. 福井大学医学部精神医学

O23-4 COVID-19パンデミック前後での児童思春期摂食障害患者の臨床像の変化

○松井 健¹、加藤 秀一²、名和 佳弘²、今枝 美穂³、高橋 長秀²

1. 名古屋大学医学部附属病院 精神科、
2. 名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科、
3. 桜クリニック

一般演題（ポスター発表）

1 日目ポスター会場

虐待・強迫症

司会：赤間 史明（東海大学医学部附属病院）

P1-1 親の小児期逆境体験（Adverse Childhood Experiences :ACEs）は子ども世代に受け継がれているのか？ ～母子間の世代間伝達に関するカルテ調査～

○早川 宜佑^{1,3}、柳橋 達彦^{2,3}、岩垂 喜貴³、笠原 麻里³、須田 史朗¹

1. 自治医科大学精神医学講座、
2. 自治医科大学附属病院とちぎ子ども医療センター 子どもの心診療科、
3. 駒木野病院 精神科・児童精神科

P1-2 幼少期の虐待により反応性アタッチメント障害を発病した女児の治療過程

○原田 健一郎、光井 瞳、山科 貴裕、中川 伸

山口大学医学部附属病院 精神科神経科

P1-3 チックへの自己対処の内容尺度の作成及び自己対処の内容と生活満足度との相関

○松田 なつみ^{1,2}、野中 舞子^{2,4}、藤原 麻由²、鈴木 茜音²、金生 由紀子^{2,3}

1. 白百合女子大学人間総合学部 発達心理学科、
2. 東京大学医学部附属病院こころの発達診療部、
3. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野、
4. 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース

P1-4 漫画やゲームのメタファーが児童の強迫性障害に対する曝露反応妨害法の治療導入に有効だった一例

○仲地 究¹、堀内 史枝^{2,4}、河邊 憲太郎^{2,4}、上野 修一³

1. 一般財団法人創精会 松山記念病院、
2. 愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター、
3. 愛媛大学病院 精神科、
4. 愛媛大学病院 児童精神医学講座

1 日目ポスター会場

入院治療1

司会：猪股 誠司（湘南福祉センター診療所）

P2-1 知的障害、情緒障害若しくは発達障害、またはこれらの疑いのある非行少年が収容される当院の高収容率について

西山 里

宮川医療少年院

P2-2 国府台病院児童精神科病棟における集団精神療法「児童ミーティング」の実践報告

○松堂 美紀¹、原田 郁大²、杉本 佳織³、市川 万由奈¹、板垣 琴瑛¹、稲崎 久美³、箱島 有輝³、水本 有紀³、宇佐美 政英³

1. 国立国際医療研究センター国府台病院 心理指導室、
2. 国立国際医療研究センター国府台病院 ソーシャルワーク室、
3. 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科

P2-3 大学附属総合病院における小規模児童思春期精神科ユニットと運用と課題

○根本 泰明、塚原 さち子、中村 知佳、島内 智子、安藤 久美子、小野 和哉

1. 聖マリアンナ医科大学 精神神経科

1 日目ポスター会場

その他1

司会：山本 直毅（長崎大学病院 精神神経科）

P3-1 子どもの希死念慮に関する親子間のミスコミュニケーションと親の抑うつとの関連

○角野 信¹、宮脇 大^{1,3}、後藤 彩子¹、平井 香²、濱 宏樹¹、西浦 沙耶花¹、井上 幸紀¹

1. 大阪市立大学（現大阪公立大学）大学院医学研究科神経精神医学、
2. 大阪公立大学大学院医学研究科小児発達医学、
3. 大阪市立総合医療センター児童青年精神科

P3-2 思春期青年期における精神病様症状のアセスメント

ー MAP（Marianna Adolescence Assessment Package）導入の試みー

○塚原 さち子、根本 泰明、熊田 知佳、島内 智子、安藤 久美子、小野 和哉

1. 聖マリアンナ医科大学 神経精神科

P3-3 グアンファシンによる治療前後の小児期注意欠如・多動症のP300（続報）

○杉山 龍^{1,2}、水井 亮¹、川西 悠加¹、土居 史磨^{1,3}、神川 浩平¹、岡崎 康輔¹、山室 和彦¹、
浦谷 光裕¹、太田 豊作⁴、飯田 順三⁵、牧之段 学¹

1. 奈良県立医科大学付属病院 精神医学講座、
2. 奈良県総合医療センター 精神科、
3. 東大阪市立障害児者支援センター、
4. 奈良県立医科大学 人間発達学、
5. 万葉クリニック 子どものこころセンター絆

P3-4 東日本大震災後に出生した子どもと保護者の精神健康の縦断的な関連

○松尾 菜津美¹、八木 淳子^{1,2}、千葉 柊作^{2,3}、柿坂 佳菜恵^{1,2}、福地 成^{4,5}、榎谷 二郎^{6,7}、松浦 直己⁸

1. 岩手医科大学医学部神経精神科学講座、
2. 岩手医科大学附属病院児童精神科、
3. 東北大学大学院教育学研究科、
4. 東北医科大学精神医学教室、
5. みやぎ心のケアセンター、
6. 東京医科大学精神医学分野、
7. 福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、
8. 三重大学教育学部特別支援教育講座

2 日目ポスター会場

PDD 1

司会：萩原 拓（北海道教育大学旭川校）

P4-1 発達性協調運動障害を合併する自閉スペクトラム症男児の運動療法による変化

○棟近 孝之¹、村上 友香理²

1. 医療法人和合会 和合病院、
2. AKIDSラボ

P4-2 自閉スペクトラム症者の就労定着を支える要因の検討

○南場 美沙都¹、西村 大樹²、内田 晃裕¹、小西 菜緒¹

1. 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター、
2. 岡山大学大学院社会文化科学研究科 客員研究員

P4-3 適応に困難のある子どもの実態把握ー包括的アセスメントにおける分析の視点ー

○萩原 拓、蔦森 英史、片桐 正敏

北海道教育大学旭川校

P4-4 自閉スペクトラム症の背景から中学生時に不登校を認めたと、移行支援を通して高校進学を契機に登校が可能となった3症例

○和気 玲^{1,2}、稲垣 卓司³

1. 島根大学医学部出雲保健管理センター、
2. 島根大学医学部精神医学講座、
3. 島根大学教育学部特別支援教育専攻

2日目ポスター会場

その他2

司会：田中 容子（府中刑務所）

P5-1 潜在的なゲーム行動症のリスクと、ゲームを構成する要素の示唆的考察 「COVID-19パンデミック下における長崎県の児童・生徒のゲーム行動調査」を踏まえて

○山本 直毅^{1,2}、今村 明³

1. 長崎大学病院 精神神経科、
2. 長崎大学病院 地域連携児童思春期精神医学診療部、
3. 長崎大学生命医科学域 保健学系 作業療法学分野

P5-2 診断に苦慮した中等度知的能力障害を伴う特発性過眠症男児の一例
～小児の睡眠障害の評価における睡眠検査の重要性～

○中村 啓喜¹、加藤 秀一¹、尾崎 紀夫²

1. 名古屋大学精神科 親と子どもの心療科、
2. 名古屋大学大学院医学系研究科 精神疾患病態解明学

P5-3 児童精神科医になるために最適な研修とは

～神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科レジデント修了医へのアンケート調査から～

○中村 智朗、庄 紀子

神奈川県立こども医療センター

P5-4 幼児期における神経発達の移行パターン及び移行パターンを予測する因子の特定

○加藤 健生、西村 倫子

浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

2日目ポスター会場

外来・入院統計

司会：佐藤 亜希子（福島県立医科大学 医学部 神経精神医学講座）

P6-1 児童思春期病棟での入院治療の意義

○吉田 奈緒美、早川 宜佑、岩垂 喜貴、岡野 恵里香、清水 圭祐、笠原 麻里

1. 医療法人財団青溪会 駒木野病院

P6-2 和歌山県立医科大学附属病院の子どものこころ外来開設後の患者の動向

○石山 雄大、松浦 広樹、山口 泰成、紀本 創兵

和歌山県立医科大学 神経精神医学教室

P6-3 東大阪市立障害児者支援センター児童精神科の現状と課題 外来初診患者の統計からみえること

○土居 史磨^{1,2}、長濱 剛史³、岡崎 康輔²、山室 和彦²、浦谷 光裕²、相原 加苗¹、山本 朗¹、
太田 豊作⁴、牧之段 学²

1. 東大阪市立障害児者支援センター、
2. 奈良県立医科大学精神医学講座、
3. 市立岸和田市民病院精神科、
4. 奈良県立医科大学 医学部看護学科 人間発達学

P6-4 当院を受診した20歳未満の患者の検討

○岩屋 悠生、香月大輔、高田 加奈子、松本 美菜子、山根 謙一、山下 洋

九州大学病院 子どものこころ診療部

2日目ポスター会場

その他3

司会：大西 雄一（東海大学医学部）

P7-1 臨床群と一般群からみる青年期の性別違和感—性別違和感尺度のカットオフ値の設定—

○吉野 真紀¹、鷺見 聡²、川端 康雄³、上島 奈菜子⁴、高山 真衣³、康 純⁵

1. 日本福祉大学 教育・心理学部 心理学科、
2. 金城学院大学 看護学部 看護学科、
3. 大阪医科薬科大学病院 精神神経科、
4. 駒澤大学 文学部 心理学科、
5. 関西大学保健管理センター

P7-2 診療所で出会う性別違和を抱える子ども達

○松岡 祐加

1. クリニックまつおか

P7-3 新型コロナウイルス禍における経済状況と子どものメンタルヘルス

○坂本 由唯³、齊藤 まなぶ²、照井 藍¹、三上 珠希²、大里 絢子²、廣田 智也^{1,4}、中村 和彦¹

1. 弘前大学大学院 医学研究科 神経精神医学講座、
2. 弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科、
3. 弘前大学医学部附属病院神経科精神科、
4. サンフランシスコ大学

P7-4 子どものこころの健康相談における COVID-19 感染拡大の影響

○佐藤 孝憲、成重 竜一郎

社会医療法人公徳会若宮病院

2日目ポスター会場

PDD 2

司会：山室 和彦（奈良県立医科大学 附属病院精神科）

P8-1 脳磁図の P1m 反応から自閉スペクトラム症の特性の強さを予測する

○佐野 滋彦¹、廣澤 徹^{1,2}、吉村 優子^{2,3}、菊知 充^{1,2}

1. 金沢大学医薬保健研究域 医学系 精神行動科学、
2. 金沢大学 子どものこころの発達研究センター、
3. 金沢大学人間社会研究域 学校教育系

P8-2 成人期自閉スペクトラム症における感覚異常と事象関連電位の関連について

○宮崎 茉衣^{1,2}、水井 亮¹、川西 悠加¹、土居 史磨^{1,3}、神川 浩平¹、岡崎 康輔¹、山室 和彦¹、
浦谷 光裕¹、太田 豊作⁴、飯田 順三⁵、牧之段 学¹

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、
2. 天理よろづ相談所病院 精神神経科、
3. 東大阪市立障害児者支援センター、
4. 奈良県立医科大学 人間発達学、
5. 万葉クリニック 子どものこころセンター絆

P8-3 自閉スペクトラム症における入眠時脳波解析

○中川 栄二^{1,2}

1. 国立精神・神経医療研究センター病院 小児神経科、
2. 国立精神・神経医療研究センター病院てんかん診療部

P8-4 自閉スペクトラム症幼児への早期支援の効果検証 ～アイトラッキングを用いた検討～

○黒田 美保^{1,3,5}、實吉 綾子²、浜田 恵^{3,6}、稲田 尚子⁴

1. 田園調布学園大学、
2. 帝京大学、
3. 名古屋学芸大学、
4. 大正大学、
5. BRIDGE こころの発達研究所、
6. 中京大学

2日目ポスター会場

学校精神保健1

司会：館農 勝（ときわ病院）

P9-1 中学生の主観的睡眠不足感の改善における背景要因—学校訪問型睡眠講座による実践研究から—

○綾部 直子¹、田村 典久³、大川 匡子²

1. 秋田大学教育文化学部、2. 医療法人社団絹和会 睡眠総合ケアクリニック代々木、
3. 広島大学大学院人間社会科学部研究科

P9-2 学校における健康観察から抑うつ・不安症状を予測する

○西村 倫子^{1,2}、和久田 学^{2,6}、大須賀 優子^{1,2}、津久井 伸明^{1,2}、足立 匡基^{2,3}、高橋 芳雄^{2,4}、
諏訪 利明^{2,5}、片山 泰一^{2,6}

1. 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター、
2. 公益社団法人 子どもの発達科学研究所、3. 明治学院大学心理学部心理学科、
4. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、5. 川崎医療福祉大学、
6. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科

P9-3 児童青年期におけるエフォートフル・コントロールとインターネットの依存的使用の関連

○高橋 芳雄¹、足立 匡基²、森 裕幸³、新川 広樹⁴、中村 和彦⁵

1. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、2. 明治学院大学心理学部心理学科、
3. 帝京平成大学、4. 弘前大学教育学部、5. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

P9-4 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の大流行が中学生に与えた中長期的な影響

—教師と生徒へのアンケート調査より—

○小倉 正義¹、金子 一史²

1. 鳴門教育大学大学院学校教育研究科、2. 名古屋大学心の発達支援研究実践センター

2日目ポスター会場

発達障害

司会：長倉 いのり（京都市児童福祉センター診療所）

P10-1 軽微な頭部打撲をきっかけに不応にに至った ASD 疑い例

渡部 泰弘

秋田県立医療療育センター 小児科

P10-2 A市における自閉スペクトラム症児の栄養素摂取の特徴

○秋山 郁菜絵¹、小枝 周平²、三上 美咲²、斉藤 まなぶ²

1. 秋田県立医療療育センター、2. 弘前大学大学院保健学研究科

P10-3 愛着の問題による言動と発達障害による言動の鑑別

○稲垣 卓司¹、和氣 玲²

1. 島根大学教育学部 特別支援教育専攻、2. 島根大学保健管理センター出雲

2日目ポスター会場

その他4

司会：大賀 肇（三河病院）

P11-1 成人における Sluggish Cognitive Tempo の有病率と関連要因の探索的調査

○中島 陽大^{1,2}、武田 俊信³、辻 由依⁴、毛利 育子²

1. 洛和会音羽病院 臨床心理室、2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科、
3. 龍谷大学心理学部、4. 札幌学院大学

P11-2 児童青年期臨床例における幻覚と感覚処理障害との関連

○西浦 沙耶花¹、宮脇 大^{1,2}、後藤 彩子¹、平井 香³、角野 信¹、濱 宏樹¹、井上 幸紀¹

1. 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、
2. 大阪市立総合医療センター児童青年精神科、
3. 大阪市立大学大学院医学研究科小児発達医学

P11-3 神経発達症をともなう児童への運動療法介入による静止立位姿勢改善に対する即時効果

○村上 友香理¹、棟近 孝之²

1. AKIDS ラボ、
2. 医療法人和合会和合病院

P11-4 注意欠如・多動症の健康増進に向けたコーチングプログラムの適用事例

武田 瑞穂

十文字学園女子大学

2日目ポスター会場

学校精神保健2

司会：藤岡 徹（福井大学教育学部）

P12-1 精神科での診察および心理カウンセリングに対して、日本と中国の大学生におけるスティグマの比較について—精神疾患に関する知識の把握度に焦点を当てて—

○李 杉杉、武田 俊信

龍谷大学文学研究科臨床心理学コース

P12-2 特別支援学校における神経科校医から見た教職員の医療に対する疑問と期待

沢井 真樹

宇治おうばく病院

P12-3 学校レベルのソーシャル・キャピタルが小中学生の欠席日数に与える効果

—マルチレベル媒介分析による検討—

○森 裕幸^{1,2}、高橋 芳雄^{2,3}、足立 匡基^{2,4}、西村 倫子⁵、新川 広樹⁶、長田 真人⁷、中村 和彦^{2,7}

1. 帝京平成大学健康メディカル学部心理学科、
2. 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター、
3. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、
4. 明治学院大学心理学部心理学科、
5. 浜松医科大学子どものこころの発達研究センター、
6. 弘前大学教育学部、
7. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

P12-4 ASD 児のインターネット依存度に対して ADHD 併存、家庭・学校要因が与える影響

○河邊 宏幸¹、藤田 梓¹、川上 澄香²、西村 倫子²

1. 天竜病院児童精神科、
2. 浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

3日目ポスター会場

心理社会的援助・家族支援1

司会：安藤 咲穂（千葉県こども病院 精神科）

P13-1 当院で行われた Gaming disorder 患者対象のデジタルデトックスキャンプの計画立案について

○下村 拓也

さいがた医療センター

P13-2 ペアレント・トレーニング実施における評価ツールの使用に関する調査

○山口 穂菜美^{1,2}、足立 みな美^{2,5}、伊藤 大幸⁴、原口 英之³、井上 雅彦^{2,5}

1. 鳥根大学教育学部、
2. 鳥取大学大学院医学系研究科、
3. 国立精神・神経医療研究センター、
4. JDDnet、
5. 弘前大学大学院医学系研究科

P13-3 性問題行動や生活全般に課題をもつ精神科デイケア利用者への多職種支援

○西村 明子、藤田 純嗣郎

岡山県精神科医療センター

P13-4 発達障害のある児をもつ在日中国人を対象としたペアレント・トレーニングプログラム開発のための実証的研究

○井上 菜穂¹、井上 雅彦²

1. 鳥取大学 学生支援センター、
2. 鳥取大学大学院医学系研究科

3 日目ポスター会場

摂食障害

司会：吉岡 靖史（岩手医科大学神経精神科学講座）

P14-1 顕著な肥満恐怖や自己誘発嘔吐と激しい治療抵抗があり、長期拘束や腸瘻による経管栄養を要した摂食障害の1例

○豊原 公司¹、南 達哉²、堀内 亮¹、佐々木 和人³、鈴木 悠¹、押淵 英弘⁴、吉井 亜希子⁵、新井 卓⁶、庄 紀子¹

1. 神奈川県立こども医療センター、
2. 八景コエールクリニック、
3. 宮城県立精神医療センター、
4. 東京女子医科大学精神医学講座、
5. 東京さつきホスピタル 発達・思春期精神科、
6. 子どもメンタルクリニック

P14-2 摂食障害診療における神奈川県内小児医療機関と神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科との連携の現状

○尾野 美奈子¹、永井 直子¹、吉井 亜希子^{1,2}、中村 智朗¹、鈴木 悠¹、山本 恭平¹、豊原 公司¹、庄 紀子¹

1. 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科、
2. 東京さつきホスピタル 発達思春期精神科

P14-3 レジリエンスと思春期やせとの関連：全国縦断調査の結果より

○石塚 一枝¹、山脇 かおり^{2,3}、西木 百合子^{4,5}、金田 文香¹、須山 聡⁶、福屋 吉史^{7,8}、小川 しおり⁹

1. 国立成育医療研究センター社会医学研究部、
2. 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター、
3. 国立成育医療研究センター教育研修部、
4. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科、
5. 東京大学大学院医学系研究科こころの発達診療部、
6. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門、
7. あさかホスピタル 総合心療科、
8. 東邦大学医学部精神神経医学講座、
9. 日本福祉大学 教育・心理学部

P14-4 COVID-19 大流行前後における浜松医科大学医学部附属病院の摂食障害入院患者数の推移

○和久田 智晴、中村 佳夏、横倉 正倫、加藤 康彦、竹林 淳和

浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科

3日目ポスター会場

症例

司会：藤田 梓（独立行政法人国立病院機構 天竜病院）

P15-1 「行動制限を用いた認知行動療法」が奏功した児童摂食障害 2 症例の検討

○山口 大樹、出口 育海、伊藤 恵、大岡 美奈子、船渡川 智之
東邦大学医学部精神神経医学講座

P15-2 自傷や器物破損を繰り返すプラダーウィリ症候群の 14 歳男児：誰もが退院を諦めかけている状態から、多職種で連携し地域での生活を実現させるまで

○川妻 加奈、野澤 唯、幅田 加以瑛、大森 一郎、小坂 浩隆
福井大学附属病院

P15-3 激しい暴力を繰り返し治療に難渋した自閉スペクトラム症の 11 歳男児例

○大谷 安奈、長沢 崇
地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科

3日目ポスター会場

心理社会的援助・家族支援 2

司会：上野 千穂（京都市第二児童福祉センター 診療所）

P16-1 精神疾患に関するスティグマについての大学生へのインタビュー調査

○武田 俊信¹、上林 結理²、小正 浩徳¹
1. 龍谷大学心理学部心理学科、2. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻

P16-2 「親子を支える」在宅支援システム—児童精神医療セクター制50年の歴史を持つフランスでの実践を紹介する—

島内 智子
聖マリアンナ医科大学 神経精神科

3日目ポスター会場

乳幼児

司会：桑原 斉（埼玉医科大学医学部神経精神科・心療内科）

P17-1 岡山県の小規模自治体における発達支援システムづくりの現状と課題

高山 恵子
希望ヶ丘ホスピタル

P17-2 A 市における 3 歳児発達健診の 5 年間の経緯及び自閉スペクトラム症（ASD）の併存障害について

○三上 珠希¹、大里 絢子¹、斉藤 まなぶ¹、照井 藍²、坂本 由唯³、三上 美咲⁴、小枝 周平⁴、中村 和彦²
1. 弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域・弘前大学医学部心理支援科学領域、
2. 弘前大学大学院医学研究科精神神経医学講座、3. 弘前大学医学部附属病院神経科精神科、
4. 弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域

3日目ポスター会場

その他5

司会：武田 俊信（龍谷大学文学部 臨床心理学科）

P18-1 小学校における教員と子どもの相互交流トレーニングの実践

松本 慶太

大阪市立総合医療センター 児童青年精神科

P18-2 大学病院精神科病棟における思春期女子グループ療法の試み

○石田 匡宏、吉村 裕太

福岡大学医学部精神医学教室

P18-3 当クリニックの児童思春期・若年成人外来における親子・家族まるごと診療 1ー現状と課題

三枝 恵美

医療法人光仁会 元住吉えみ心療クリニック

P18-4 当クリニックの児童思春期・若年成人外来における親子・家族まるごと診療 2

ー発達障害の要支援度評価尺度（以下、MPASA）、ウェクスラー式知能検査（以下、WISC/WAIS）を中心とした家族の理解と心理支援

○清嶋 香織、三枝 恵美

医療法人光仁会 元住吉えみ心療クリニック

3日目ポスター会場

精神療法・心理療法

司会：浦谷 光裕（奈良県立医科大学附属病院）

P19-1 児童思春期精神科の外来診療における音楽療法の実践報告

井関 真知子

福岡こどもと大人の心療内科児童精神科まちこメンタルクリニック

P19-2 心理教育としてのアートサイコセラピー：支援学校での教職員への試み

森 香保里

独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター

P19-3 心理職養成大学院におけるセクシュアリティ教育の問題点

○松原 愛¹、武田 俊信²

1. 龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻、2. 龍谷大学心理学部心理学科

3日目ポスター会場

入院治療2

司会：長沢 崇（東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科）

P20-1 大人との関係構築を基盤とした個別 Social Skills Training を通して成長が見られた小学6年生注意欠如多動症男児の症例

○後久 智子¹、中村 清美¹、中村 みゆき²、永田 浩貴¹、中西 大介

1. 三重県立子ども心身発達医療センター、

2. 特定非営利活動法人ライフ・ステージ・サポートみえ

P20-2 児童精神科病棟での活動集団療法が有効であった解離性障害の一例

○井上 彩織^{1,2}、板垣 琴瑛²、高橋 萌々香²、水本 有紀²、箱島 有輝²、稲崎 久美²、河邊 憲太郎³、堀内 史枝³、宇佐美 政英²、上野 修一¹

1. 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座、
2. 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科、
3. 愛媛大学医学系研究科 児童精神医学講座

一般演題 (E ポスター)

PDD / 自閉スペクトラム症 (ASD)

E-P-1 青年期の女性自閉スペクトラム症者が抱える『カモフラージュ』と『自分らしさ』との狭間で生じる葛藤—インタビュー調査を通して

○岩男 美美¹、土橋 悠加⁷、藤井 寛子⁶、飯田 潤子²、豊丹生 啓子³、田中 亜矢巳⁵、木谷 秀勝⁴

1. 中村学園大学 教育学部、2. なかにわメンタルクリニック、3. 下関市こども発達センター、4. 山口大学教育学部、5. 山口大学大学院東アジア研究科博士後期課程、6. かねはら小児科、7. GMO ドリームウェーブ株式会社

E-P-2 勉強へ回避する自閉スペクトラム症男児の入院治療経過

○篠原 玲奈¹、宇佐美 政英¹、稲崎 久美¹、水本 有紀¹、吉村 裕太³、箱島 有輝¹、板垣 琴瑛¹、原田 郁大²

1. 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科、
2. 社会福祉法人拓く 久留米市西部障害者基幹相談支援センター、
3. 福岡大学医学部 精神医学教室

E-P-3 不安と向社会性が自閉スペクトラム症児の目領域への注視に与える影響についての研究

○藤岡 徹^{1,2}、小坂 浩隆^{2,3,4,5}

1. 福井大学教育学部、2. 連合小児発達学研究所、3. 福井大・精神医学、
4. 福井大学病院子どものこころ診療部、5. 福井大・子どものこころの発達研究センター

E-P-4 自閉スペクトラム症の障がい特性を予測する臍帯血中の多価不飽和脂肪酸代謝物

○平井 孝治¹、梅田 尚子¹、西村 倫子^{2,4}、松崎 秀夫^{3,4}

1. 福井大学学術研究院医学系部門、2. 浜松医科大学子どもこころの発達研究センター、
3. 福井大学子どもこころの発達研究センター、4. 大阪大学連合小児発達学研究所

E-P-5 自閉スペクトラム症児の対人不適応行動尺度の作成と信頼性と妥当性の検討

○中西 陽¹、小松 愛²、大西 貴子³

1. 奈良教育大学学校教育講座、2. 奈良教育大学特別支援教育研究センター、
3. なにわ生野病院心療内科

E-P-6 自閉症スペクトラム障害者の協調動作課題における視覚運動変換の困難性について

○齊藤 真善¹、安達 潤²

1. 北海道教育大学札幌校 特別支援教育専攻、2. 北海道大学大学院教育学研究院

E-P-7 強度行動障害者への入院治療プログラムを用いた多施設介入研究

○會田 千重¹、杠 岳文¹、市川 宏伸²、井上 雅彦³、日詰 正文⁴、成田 秀幸⁴、根本 昌彦⁴、高橋 和俊⁵、山下 健⁶、吉川 徹⁷、児玉 匡史⁸、田中 恭子⁹

1. 国立病院機構肥前精神医療センター、
2. 日本発達障害ネットワーク、
3. 鳥取大学医学部医学系研究科、
4. 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、
5. ゆうあい会石川診療所、
6. 国立病院機構さいがた医療センター、
7. 愛知県医療療育総合センター中央病院、
8. 岡山県精神科医療センター、
9. 国立病院機構菊池病院

外来・入院統計

E-P-8 東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科における入院患者の動向 ～センター開院後 12 年間の入院統計～

○竹村 みどり¹、長沢 崇²

1. 陽和病院 精神科、
2. 地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科

E-P-9 自殺関連行動を有する児童思春期外来患者の臨床的特徴

○池下 克実、竹村 有由、一岩 智明

医療法人一尚会 いちメンタルクリニック日本橋

E-P-10 強度行動障害をもつ知的障害児・者の新規入院・レスパイトの受け入れの経験から

田中 恭子

菊池病院

E-P-11 鶴が丘ガーデンホスピタル及び分院における 18 歳以下の外来初診患者の動向について

○川出 ゆう子¹、黒川 駿哉^{2,3}

1. 鶴が丘ガーデンホスピタル、
2. 不知火クリニック、
3. 慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室

E-P-12 都市部メンタルクリニック一般外来における児童青年期患者の 3 年間の動向

○竹村 有由、池下 克実、一岩 智明

医療法人一尚会 いちメンタルクリニック日本橋

E-P-13 児童精神科初診時に身体症状を有する患者の解析（予備研究）

○稲崎 久美、野村 由紀、藤原 正太郎、馬 敏宰、松土 晴奈、小高 麻衣子、酒匂 雄貴、杉本 佳織、黒河内 敏成、篠原 玲奈、松堂 美紀、市川 万由奈、高橋 萌々香、箱島 有輝、水本 有紀、板垣 琴瑛、山本 啓太、佐々木 祥乃、宇佐美 政英

1. 国立国際医療研究センター 国府台病院 児童精神科

入院治療

E-P-14 自傷行為のある思春期病棟入院患者における Family Diagnostic Test (FDT) を用いた親子関係

○江間 彩子¹、小村 慶和²、児玉 啓輔³、高畑 賢³、三澤 史斉³、竹内 啓善⁴

1. (前) 地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立北病院、
2. 京都大学大学院医学研究科社会疫学分野、
3. 地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立北病院、
4. 慶應義塾大学 精神・神経科学教室

E-P-15 児童精神科病棟における音環境保全対策が子どもと職員に与える影響：感覚に優しい入院環境にむけて

○高橋 秀俊¹、土田 幸子²、坂谷 政子³、中西 大介³

1. 高知大学 医学部 寄附講座 児童青年期精神医学、
2. 鈴鹿医療科学大学 看護学部、
3. 三重県立子ども心身発達医療センター

E-P-16 思春期病棟における集団精神療法の実践

坂上 沙織

大阪精神医療センター

E-P-17 自閉症スペクトラム障害と性的マイノリティの悩みを抱えた性的逸脱行為の症例

○加藤 あい、大槻 一行、中西 大介

三重県立子ども心身発達医療センター

摂食障害

E-P-18 思春期発症の神経性無食欲症における腸内フローラ解析

○山口 泰成^{1,2}、中野 章代³、矢野 寿一³、紀本 創兵¹

1. 和歌山県立医科大学 神経精神医学教室、
2. 奈良県立医科大学 精神医学講座、
3. 奈良県立医科大学 微生物感染症学教室

E-P-19 児童思春期病棟における摂食障害患者の治療—治療の構造的工夫について—

○佐藤 紗史、横田 周三、比江島 誠人、河崎 達弥、植村 照子、杉本 千佳子
向陽台病院

E-P-20 母子関係の介入が症状改善に寄与した摂食障害女児の治療経過の一例

○松土 晴奈、宇佐美 政英、稲崎 久美、水本 有紀、箱島 有輝、板垣 琴瑛、山本 啓太
国立国際医療研究センター国府台病院

学校精神保健

E-P-21 中学時代の不登校経験は、高校での自殺念慮のリスクを2倍にする

○梅本 正和¹、大橋 浩²、駒田 幹彦³、二井 栄⁴

1. うめもとこどもクリニック、
2. 三重病院小児科、
3. 駒田医院、
4. 三重県医師会

E-P-22 日本語版感情反応性指標の信頼性と妥当性の検討

—小中学生におけるイリタビリティと内在化・外在化問題の関連—

○長田 真人¹、足立 匡基⁴、高橋 芳雄³、森 裕幸²、齊藤 卓弥⁵、中村 和彦¹

1. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、
2. 帝京平成大学健康メディカル学部心理学科、
3. 東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター、
4. 明治学院大学心理学部、
5. 北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座

心理社会的援助・家族支援

E-P-23 児童・思春期症例に対する訪問看護の有用性

○門間 太作¹、金本 辰洋²、堀上 千里²、大野 由梨¹、魚住 広之¹、中井 大貴¹、橋本 亮¹、田村 和世¹、
吉見 佳奈¹、飯塚 理¹、福島 茂樹¹、田中 顕正¹、吉川 陽子¹、松島 章晃¹、横田 伸吾¹、
黒田 健治¹

1. 医療法人 杏和会 阪南病院、
2. Ohana Sun 訪問看護ステーション

- E-P-24 不登校児を対象とした児童思春期精神科ショートケアの予後について
～医療法人サヂカム会三国丘こころのクリニックショートケア“なごみ”参加者予後の後方視的検討～
○村嶋 隼人¹、岡田 恵里¹、岩橋 多加寿²、奥野 正景¹
1. 医療法人サヂカム会 三国丘こころのクリニック／三国丘病院、
2. 医療法人サヂカム会三国丘こころのクリニック

地域連携

- E-P-25 当院における児童青年期の初診患者の動向
○徳丸 淑江、市川 千智、中島 美千世
Koharu terrace Clinic
- E-P-26 障害児相談支援の現状と課題－相談支援専門員への全国アンケート調査の結果から－
○稲田 尚子¹、内山 登紀夫²
1. 大正大学、2. 福島学院大学

統合失調症・ARMS

- E-P-27 Child Psychosis-risk Screening System (CPSS) の予後予測能－機械学習による検証
○濱崎 由紀子^{1,2}、阪上 由子³、松尾 雅博⁴、眞田 陸⁶、上羽 智子⁵
1. 京都女子大学現代社会学部、2. 医療法人藤樹会滋賀里病院、
3. 滋賀医科大学医学部小児科学講座、4. 滋賀医科大学医学部精神医学講座、
5. 済生会守山市民病院小児科、6. 福井大学医学部精神医学講座

強迫症・チック症

- E-P-28 認知行動療法により短期間で改善した児童強迫症の2症例
○荻野 俊、向井 馨一郎、櫻井 正彦、細井 幸彦、松永 寿人
兵庫医科大学病院 精神科神経科

ADHD

- E-P-29 注意欠如多動傾向のある大学生の自己受容の特徴
○篠田 直子¹、篠田 晴男²、篠田 菜々³
1. 信州大学学術研究院教育学系、2. 立正大学心理学部、3. 千葉大学大学院医学薬学府

不安症など

- E-P-30 場面緘黙児の保護者が医療機関を受診する際に抱く困難感
○山中 智央^{1,2}、井上 雅彦²
1. 鳥根大学教育研究推進系、2. 鳥取大学大学院医学系研究科

不登校・ひきこもり

- E-P-31 長期の不登校であった自閉スペクトラム症の中学生男児の入院治療経過
○小高 麻衣子¹、板垣 琴瑛¹、原田 郁大²、箱島 有輝¹、稲崎 久美¹、水本 有紀¹、宇佐美 政英¹
1. 国立国際医療研究センター国府台病院、2. 久留米市西部障害者基幹相談支援センター

その他の神経発達症

- E-P-32 神経線維腫症1型の視空間認知と学習能力の関連性
○佐々木 彩恵子¹、磯部 昌憲²、上月 遥²、上床 輝久²、戸瀬 景菜²、砂田 桃³、森本 佳奈³、
村井 俊哉^{2,3}
1. 京都大学発達小児科学教室、2. 京都大学医学部附属病院神経科精神科、
3. 京都大学精神医学教室

その他

E-P-33 新生児臍帯血中のリノール酸とリノール酸ジオールは出生体重に影響する

○梅田 尚子^{1,2}、平井 孝治^{2,3}、松崎 秀夫^{2,4}

1. 福井大学学術研究院医学系部門 育成期看護学、
2. 福井大学ライフサイエンスイノベーションセンター、
3. 福井大学学術研究院医学系部門 コミュニティ看護学、
4. 福井大学子どものこころの発達研究センター

E-P-34 大学生のゲーム使用と学生生活の充実度

ーゲーム依存に関する教育・心理系の大学生を対象としたアンケート調査から (続報)ー

○小川しおり¹、須山 聡²、鷺見 聡³

1. 日本福祉大学 教育・心理学部 心理学科、
2. 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門、3. 金城学院大学 看護学部

E-P-35 神経発達症支援と保育士のメンタルヘルスー診断児と「気になる子」ー

○上月 遥¹、長尾 海里³、山本 沙也加³、佐々木 彩恵子²、森本 佳奈¹、砂田 桃¹、山田 晶子¹、
上床 輝久¹、磯部 昌憲¹、村井 俊哉¹

1. 京都大学大学院医学部附属病院 精神科、
2. 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学、
3. 京都大学医学部附属病院 臨床心理室

E-P-36 東日本大震災による孤児を里子として迎え入れた里親のインタビューへ

○福地 成^{1,2}、古川 恵美³、井上 靖子⁴、増野 園恵⁵、林 知里⁵、梅田 麻希⁵

1. 東北医科薬科大学医学部 精神科学教室、
2. 公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター、
3. 兵庫県立大学看護学部、
4. 兵庫県立大学環境人間学部 環境人間学科、
5. 兵庫県立大学 地域ケア開発研究所

謝 辞

一般財団法人愛成会弘前愛成会病院
医療法人社団木野記念会福田西病院
医療法人社団五色会五色台病院
医療法人社団聖康会聖康会病院
医療法人社団清泉会布施病院
医療法人社団来蘇圓会黒石あけぼの病院
医療法人社団緑生会天王病院
医療法人十全会聖明病院
医療法人芙蓉会芙蓉会病院
ヴィアトリス製薬株式会社
エーザイ株式会社
MSD株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社明石書店
株式会社金子書房
株式会社金剛出版
株式会社三京房
株式会社誠信書房
株式会社日本文化科学社
公益社団法人弘前観光コンベンション協会
社会医療法人松平病院
住友ファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
中央法規出版株式会社
津軽保健生活協同組合藤代健生病院
帝人ファーマ株式会社
ニプロ株式会社
ノーベルファーマ株式会社/株式会社メディパルホールディングス
弘前あすなろメンタルクリニック
弘前大学神経精神医学講座同窓会
福村出版株式会社
むらなか小児科内科
Meiji Seikaファルマ株式会社
ヤンセンファーマ株式会社
吉富薬品株式会社

五十音順
2023年9月29日現在

第64回日本児童青年精神医学会総会の開催にあたり、上記の皆様からのご支援を賜りました。ここに謹んで御礼申し上げます。

第64回日本児童青年精神医学会総会
会長 中村 和彦

第 64 回日本児童青年精神医学会総会 役員

大会長	中村 和彦	弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
顧問	田崎 博一	一般社団法人青森県精神科病院・診療所協会 会長
事務局長	富田 哲	弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
担当理事	本田 秀夫 本多 奈美 小野 和哉 木村 一優	信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座臨床心理学分野 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室 多摩あおば病院
プログラム委員	本田 秀夫 本多 奈美 木村 一優 小野 和哉 大西 雄一 太田 豊作 熊崎 博一 藤川 洋子 上野 千穂 亀岡 智美 関 正樹 和久田 学 森岡由起子 中里 道子 八木 淳子 板垣俊太郎 坂本 由唯	信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座臨床心理学分野 多摩あおば病院 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室 東海大学医学部総合診療学系精神科学 奈良県立医科大学 看護学科 人間発達学 長崎大学医学部精神神経科学教室 国立大学法人 京都工芸繊維大学 京都市第二児童福祉センター診療所 兵庫県こころのケアセンター 大湫病院 公益社団法人子どもの発達科学研究所 聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科 国際医療福祉大学医学部 精神医学教室 岩手医科大学医学部神経精神科学講座・岩手医科大学附属病院児童精神科 福島県立医科大学健康管理センター・医学部 神経精神医学講座 弘前大学医学部附属病院 神経科精神科
運営事務局	株式会社メッド	



第64回

日本児童青年精神医学会総会

The 64th Annual Meeting of the Japanese Society
for Child and Adolescent Psychiatry